



平成30年度

「地域学校協働活動」 実践事例集

＜「学校応援団」の活動＞ ＜放課後子供教室＞
＜土曜日の教育支援＞ ＜中学生学力アップ教室＞



〔「みんなで合唱しよう」(上尾市立上尾中学校)〕

埼玉県教育委員会

平成31年3月

はじめに

近年、少子高齢化やグローバル化、科学技術の急速な発展に伴う社会の大きな変化の中で、地域においては、地域社会のつながり、支え合いの希薄化、教育力の低下といった課題が指摘され、学校においては、いじめや不登校、貧困などの子供を取り巻く問題の複雑化・困難化が危惧されています。地域と学校が共に未来を担う子供たちへの教育の担い手として力を合わせ、連携・協働していく組織的・継続的な仕組みが求められています。

このような背景の中、国は、平成27年12月の中教審答申や平成28年1月の『次世代の学校・地域』創生プランを踏まえ、平成29年3月に社会教育法を改正し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動である「地域学校協働活動」を法律に位置づけました。

また、次期学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる重要性も示されています。

本県においてはこれまで、各市町村や学校の熱意ある取組、また、保護者や地域の方々の御理解、御協力を受け、「学校応援団」の活動や「放課後子供教室」等の地域の教育力を活かした事業の円滑な実施、内容の充実が図られてきており、関係の皆様方には改めて感謝申し上げます。今後はさらに、時代の要請を踏まえ、個別の活動のネットワーク化、より幅広い地域住民等の参画を目指した「地域学校協働活動」としてこれまでの活動を捉え直し、推進していく上で、本事例集も名称を変更し発行することとなりました。

本事例集は、「地域学校協働活動」である「学校応援団」、「放課後子供教室」等の事業を推進する上で参考となる代表的な事例を紹介するとともに、研究指定校等における研究の内容及び成果等を掲載しています。

今年度は「地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携・協働した取組の推進」をテーマとして、上尾市、越生町、上里町、長瀨町、行田市の5市町教育委員会に研究実践に取り組んでいただき、地域の特色を踏まえた学校・家庭・地域が一体となった子供の育成に関する貴重な成果が報告されています。

各市町村教育委員会や小・中学校、関係団体におかれましては、本事例集を参考にいただき、「地域学校協働活動」を通して、社会総掛かりで子供たちの学びや成長を支える取組を一層推進していただきますようお願いいたします。

平成31年3月

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課長 金子 隆

目 次

第1 「地域学校協働活動」とは

「地域学校協働活動」の推進に向けて..... 2

第2 「学校応援団」とは

「学校応援団」の概要について..... 6

平成30年度「学校応援団」の推進に係る調査結果概要..... 9

トピック1

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰..... 14

第3 「学校応援団」の実践事例

〔南部地区〕

- 1 鴻巣市立赤見台第一小学校..... 16
- 2 戸田市立芦原小学校..... 18
- 3 和光市立白子小学校..... 20
- 4 新座市立栄小学校..... 22
- 5 桶川市立桶川中学校..... 24
- 6 北本市立東中学校..... 26
- 7 伊奈町立小室小学校..... 28

〔西部地区〕

- 8 飯能市立東吾野小学校..... 30
- 9 東松山立北中学校..... 32
- 10 狭山市立堀兼小学校..... 34
- 11 富士見市立みずほ台小学校..... 36
- 12 ふじみ野市立大井小学校..... 38
- 13 坂戸市立桜小学校..... 40
- 14 鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校..... 42
- 15 三芳町立藤久保小学校..... 44
- 16 毛呂山町立光山小学校..... 46

〔北部地区〕

- 17 深谷市立川本南小学校..... 48
- 18 横瀬町立小・中学校..... 50
- 19 小鹿野町立三田川小学校..... 52

〔東部地区〕

- 20 行田市立北小学校..... 54
- 21 久喜市立栗橋小学校..... 56
- 22 三郷市立戸ヶ崎小学校..... 58
- 23 蓮田市立黒浜小学校..... 60
- 24 宮代町立百間小学校..... 62

トピック2

「学校地域WIN-WINプロジェクト」（県立学校の取組）..... 64

第4 「放課後子供教室推進事業」とは

「放課後子供教室推進事業」について..... 66

第5 「放課後子供教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)

〔放課後子供教室・南部地区〕

- 1 鴻巣市..... 70
- 2 草加市..... 71

3	蕨市	72
4	戸田市	73
5	志木市	74
6	和光市	75
7	新座市	76
8	桶川市	77
9	北本市	78
〔放課後子供教室・西部地区〕		
10	所沢市	79
11	東松山市	80
12	狭山市	81
13	入間市	82
14	富士見市	83
15	ふじみ野市	84
16	坂戸市	85
17	鶴ヶ島市	86
18	日高市	87
19	毛呂山町	88
20	嵐山町	89
21	小川町	90
22	ときがわ町	91
23	川島町	92
24	吉見町	93
〔放課後子供教室・北部地区〕		
25	熊谷市	94
26	秩父市	95
27	上里町	96
28	寄居町	97
29	横瀬町	98
30	皆野町	99
31	長瀨町	100
32	小鹿野町	101
〔放課後子供教室・東部地区〕		
33	行田市	102
34	春日部市	103
35	羽生市	104
36	久喜市	105
37	三郷市	106
38	蓮田市	107
39	吉川市	108
40	杉戸町	109
41	松伏町	110
〔放課後の居場所づくり推進事業〕		
	「放課後の居場所づくり推進事業」とは	111
1	志木市	112
2	和光市	114

3	小川町	116
4	行田市	118
5	松伏町	120

〔土曜日の教育支援〕

1	上尾市	122
2	蕨市	123
3	朝霞市	124
4	新座市	125
5	北本市	126
6	所沢市	127
7	東松山市	128
8	ふじみ野市	129
9	坂戸市	130
10	鶴ヶ島市	131
11	毛呂山町	132
12	越生町	133
13	熊谷市	134
14	深谷市	135
15	寄居町	136
16	三郷市	137

〔中学生学力アップ教室〕

1	北本市	138
2	越生町	139
3	熊谷市	140
4	秩父市	141
5	深谷市	142
6	長瀨町	143
7	小鹿野町	144
8	上里町	145
9	寄居町	146
10	加須市	147
11	久喜市	148

第6 地域との協働による教育の推進に向けた県教委の取組

1	学校・家庭・地域連携推進委員会	150
2	学校・家庭・地域連携担当者会議	150
3	学校・家庭・地域連携推進に係る研究委嘱	151
4	学校・家庭・地域連携実践発表会	153
5	埼玉県コーディネーター研修等	154
6	優良事例等の普及・啓発	156

第7 平成30年度学校・家庭・地域連携推進に関する研究委嘱 実践事例

1	上尾市教育委員会（研究指定校：上尾中学校）	158
2	越生町教育委員会（研究指定校：越生小学校・梅園小学校・越生中学校）	160
3	上里町教育委員会（研究指定校：長幡小学校）	162
4	長瀨町教育委員会（研究指定校：長瀨第二小学校）	164
5	行田市教育委員会	166

第1 「地域学校協働活動」とは



まちたんけん
鴻巣市立赤見台第一小学校

「地域学校協働活動」の推進に向けて

1 背景

(1) 社会の動向

- 急激な少子高齢化やグローバル化の進展等に伴い、激しく社会環境が変化してきている。
- 地域においては、地域社会の支え合いの希薄化、教育力の低下、家庭の孤立化などの課題がある。
- 学校においては、いじめや不登校、貧困などをはじめ、子供を取り巻く問題が複雑化・困難化してきている。



社会総掛かりでの対応が必要

予測がつかないこれからの世の中を、柔軟に逞しく生き抜いていける人材の育成を考えた時、学校だけが子供の教育を担うのではなく、地域社会も教育に責任をもち、社会総掛かりで子供を育てていく必要があること、またそのためには、学校や地域人材が個別に教育に関わるのではなく、ネットワークを作って取り組んでいくことが有効である。

(2) 国の動き

○ 平成27年12月

中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」

- ・「地域学校協働活動」の推進及び「地域学校協働本部」の全国的な整備の提言

○ 平成28年1月

『次世代の学校・地域』創生プラン

- ・本プランの実現に向け、社会教育法の改正、「地域学校協働本部」の全国的な整備が進められた。

○ 平成29年3月

社会教育法改正

- ・「地域学校協働活動」を実施する教育委員会が地域住民等と学校との連携協力体制を整備
- ・「地域学校協働活動」に関し地域住民と学校との情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する規定の整備

次期学習指導要領告示（小・中・高〔高等学校は平成30年3月告示〕）

- ・「社会に開かれた教育課程の実現が重要」
- ・「学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を超えた交流の機会を設けること。」

2 「地域学校協働活動」とは

(1) 定義

「地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、『学校を核とした地域づくり』を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」

(2) 具体的な活動例

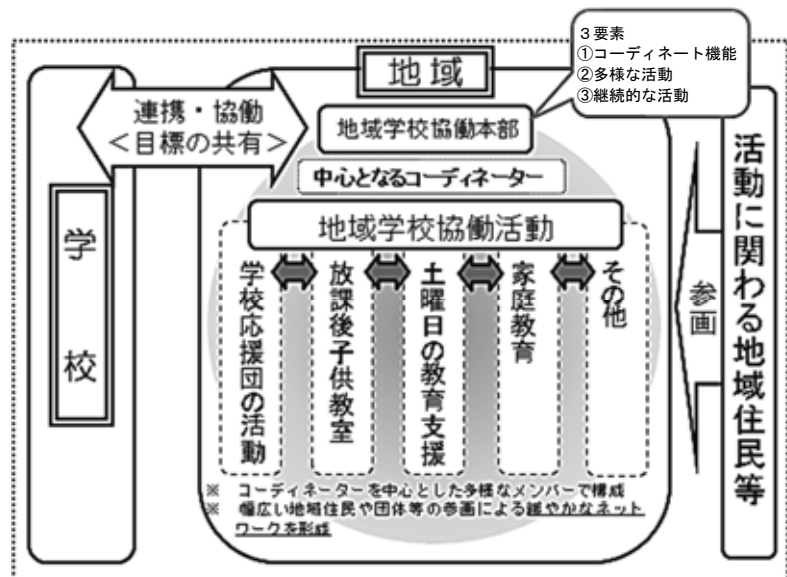
- ・ 登下校の見守り・読み聞かせ・授業補助・学校周辺環境整備・部活動支援
- ・ 放課後や土曜日等における学習プログラムの提供・家庭教育支援活動
- ・ 地域人材育成・防災教育・ボランティア活動への参画・郷土学習
- ・ 地域行事への参画

⇒「地域学校協働活動」は法令に規定された新たな取組といえるが、本県においてはそれぞれの学校・地域ですでに取り組んでいる活動といえる。

(3) これまでとこれから

これまで個別に行われていた「学校応援団」や「放課後子供教室」等の活動が、互いに人材の行き来をさせながら、ネットワークをつくり、横のつながりをもって取り組まれることや、更なる多様な地域人材、団体・組織の主体的な参画が想定されている。

また、それぞれの活動がネットワークをつくっていくということになると、活動自体がこれまでより大きなものになったり、参画する人々が増え、多様になっていったりすることも想定されるため、活動に参加する人々が協議をしたり、共通理解を図ったりする場である、「地域学校協働本部」の整備が効果的と考えられている。



3 「地域学校協働本部」とは

(1) 定義

「従来の学校支援地域本部等の地域と学校の連携体制を基盤とするなど、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制」

※「学校支援地域本部」：本県における「学校応援団」のような学校への支援組織に対する国の呼称

(2) 「本部の3つの要素」

国は以下の3点を、「地域学校協働本部」を成立させるために「必須とすることが重要」とし、「本部の3つの要素」を示している。

- ①コーディネート機能・・・多様な団体・組織とのネットワークを構築するために連絡・調整を行い、円滑な活動の推進に寄与するコーディネーターによる働き
- ②多様な活動・・・より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施
- ③継続的な活動・・・地域学校協働活動の継続的・安定的実施

4 「地域学校協働本部」の推進について

(1) 「本部の3つの要素」に係る本県の現状

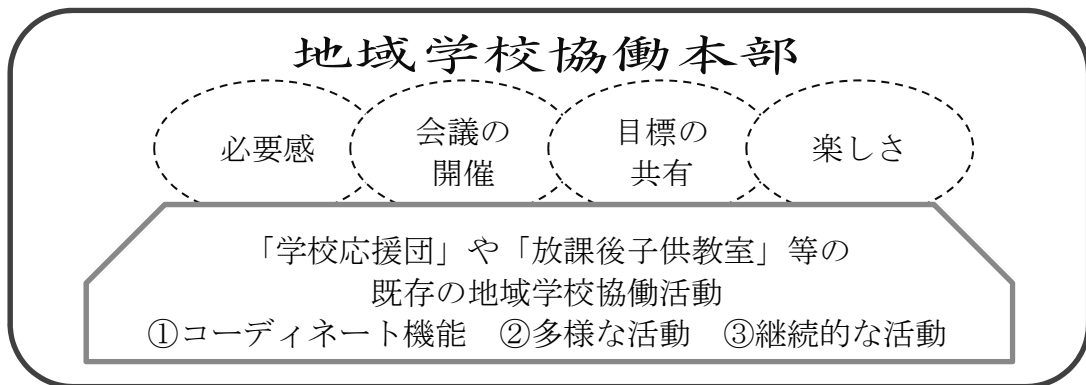
本部の3つの要素	本県の現状
①コーディネート機能	全ての小・中学校に「学校応援コーディネーター」がおり、「放課後子供教室」はコーディネーターを配置。
②多様な活動	「学校応援団」、「放課後子供教室」等では、ネットワークを活かした様々な活動がすでに行われている。
③継続的な活動	平成24年度以降、全ての小・中学校に「学校応援団」が整備され、平成19年度以降、「放課後子供教室」を実施する自治体も増えてきている。

表に示したように、本県においてはすでに、「本部」の整備に向けた素地ができあがっているといえる。

(2) 今後の「地域学校協働本部」の整備について

本県では、「学校応援団」に係る会議を実施している小・中学校が多く、「放課後子供教室」の協議会も整備されている。このように、活動に参画する人々が集まり、話し合い、活動する場を設けることや、「地域の子供たちをこのように育てたい」といった目標や活動に対する「必要感」を共有すること、活動そのものを楽しいものにしていくといった要件を整えることも、「地域学校協働本部」を整備する上で大切なこととなる。

今後は、各市町村の実態に応じて、「学校応援団」や「放課後子供教室」等のつながりを深めたり、既存の「地域学校協働活動」がこれまでつながっていなかった地域の組織・団体と連携・協働したりする体制を整えていくことで、「地域学校協働本部」の整備が進められていく。



※国は2022年度までに、全小中学校区をカバーして「地域学校協働活動」を推進、「地域学校協働本部」を設置することを目標としている。

第2 「学校応援団」とは



ミシンボランティア
ふじみ野市立大井小学校

「学校応援団」の概要について

1 趣旨

家庭を含む地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員の子供と向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び家庭・地域の教育力の向上を図る。

2 内容

(1) 「学校応援団」とは

○学校における学習活動、安全確保、環境整備などについて、ボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織

(2) 「学校応援コーディネーター」とは

○各学校において教職員以外の者で、学校と家庭、地域が連携した様々な活動（「学校応援団」の活動）の連絡・調整をする者

○県では、「学校応援団」の組織的・継続的な活動を目指すため、「学校応援コーディネーター」の複数配置を推奨している。

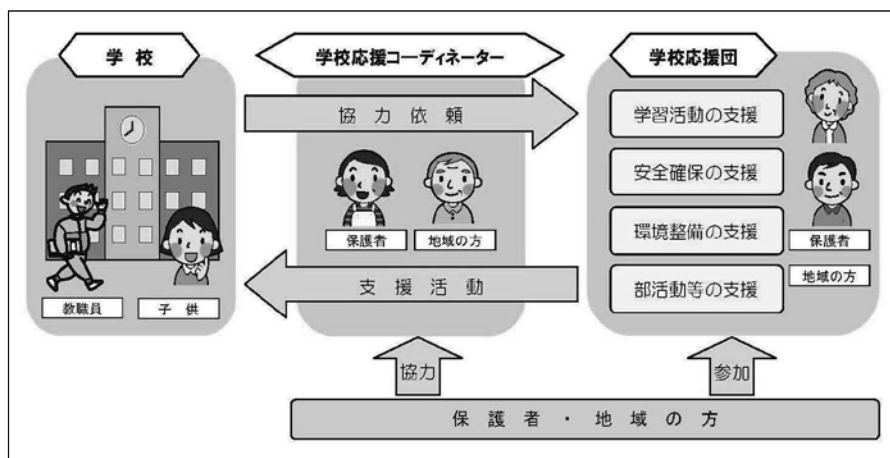
○「埼玉県5か年計画」においては、「公立小・中学校と『学校応援団』の調整（コーディネイト）を行う人」と示され、平成33年度末までに3,100人の配置が施策指標となっている。

○「学校応援コーディネーター」の担い手

(例) PTA関係者・学校評議員・学校運営協議会等関係者・「おやじの会」関係者
町内会長・区長・自治会長・民生委員・児童委員

○「学校応援コーディネーター」の役割

(例) ・「学校応援団」の活動に参画する地域の様々な団体・組織等との連絡・調整
・地域や学校の実情に応じた「学校応援団」の活動の企画・立案
・新たなボランティアの募集活動



※県が例年実施している「『学校応援団』の推進に係る調査」においては、「『学校応援団』が組織されており、学校と『学校応援団』との調整役（教職員以外）がいる」学校を「『学校応援団』が組織された学校」と定義している。

(3) 「学校応援団」の主な活動内容

○ 学習活動への支援

保護者や地域住民が「学習支援ボランティア」として、児童生徒の学習活動を支援

- (例) ・ ミシン、書写等の実技支援
- ・ 放課後、長期休業中等の補習支援
- ・ 体験活動（「みどりの学校ファーム」を含む）への支援 等

○ 安心・安全確保への支援

校区内で防犯パトロールを行うなど、児童生徒の登下校時などの安全確保を支援

- (例) ・ 登下校時における通学路の見守り
- ・ 朝の挨拶運動、校内外の巡回
- ・ 防災訓練への協力 等

○ 学校環境整備への支援

学校内での花壇の整備を行うなど、教育活動の環境整備を支援

- (例) ・ 花壇の整備、除草
- ・ 学校の施設設備の修繕
- ・ 学校図書館の図書整理 等

○ 部活動・クラブ活動への支援

ボランティアの経験を活かした部活動指導や大会への引率支援

- (例) ・ 外部コーチとしての実技指導
- ・ 大会への引率支援 等

【現状】

活動内容 (平成30年度)	小学校	中学校
学習活動への支援	693校	191校
安心・安全確保への支援	691校	278校
学校の環境整備への支援	658校	302校
部活動・クラブ活動への支援	161校	159校

※複数の活動を行う学校あり



〔夏休み補習学習〕
(三芳町立藤久保小学校)



〔菊作り体験〕
(横瀬町立横瀬中学校)



〔倒木処理作業〕
(桶川市立桶川中学校)

【成果】

- 「地域人材」を活用した支援活動の結果という視点から
- ・ 子供の多様な体験や経験が増加した。

- ・学習活動の支援により、子供の学習意欲が向上した。
- ・子供の地域への理解・関心が深まった。
- 学校と家庭・地域との連携という視点から
 - ・学校の教育活動への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解や信頼が深まった。
 - ・保護者や地域の方が来校することにより、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。
 - ・保護者や地域の方の「生きがい」や「やりがい」などにつながった。

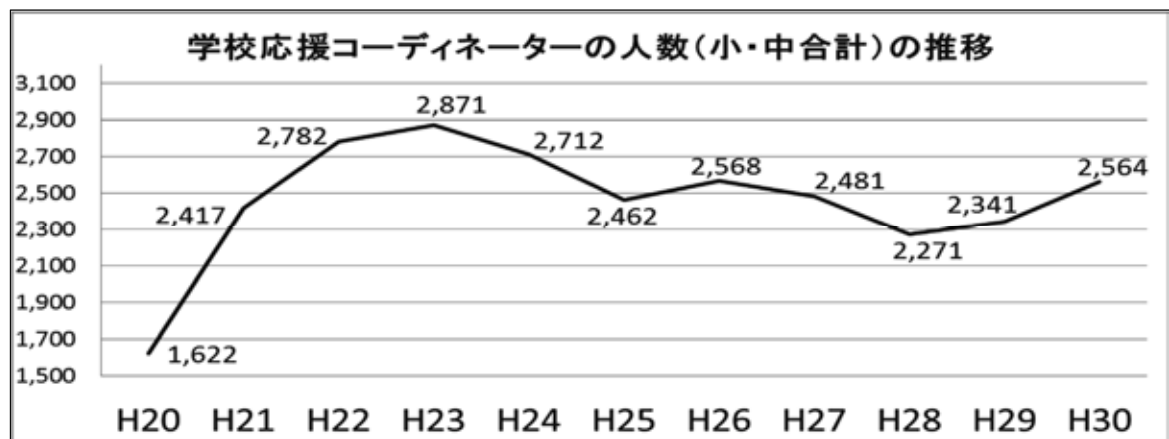
【課題】

- ・学校応援コーディネーターやボランティアの人材確保
- ・学校応援コーディネーターやボランティアとの打ち合わせや調整時間の確保

3 「学校応援団」の組織率の推移

	小学校			中学校		
	応援団が組織されている学校数(校)	組織率(%) 【※】	学校応援コーディネーター人数(人)	応援団が組織されている学校数(校)	組織率(%) 【※】	学校応援コーディネーター人数(人)
平成17年度	7	1				
平成18年度	208	29				
平成19年度	270	38				
平成20年度	456	64	1,274	122	33	348
平成21年度	637	89	1,875	192	52	542
平成22年度	713	99	1,931	276	75	851
平成23年度	713	100	1,995	351	97	876
平成24年度	710	100	1,948	363	100	764
平成25年度	709	100	1,712	362	100	750
平成26年度	708	100	1,754	361	100	814
平成27年度	708	100	1,761	359	100	720
平成28年度	708	100	1,601	355	100	670
平成29年度	708	100	1,699	355	100	642
平成30年度	706	100	1,874	355	100	690

※「組織率」＝「応援団が組織されている学校数」／「全学校数」



平成30年度「学校応援団」の推進に係る調査結果概要

1 「学校応援団」の組織状況

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団」（学校を支援する組織）が組織されており、学校と「学校応援団」との調整役（教職員以外）がいる。	706	100%	355	100%
学校を支援する組織はあるが、学校と組織との調整役がない。	0	0%	0	0%
学校の教育活動の支援を行う組織がなく、調整役もない。	0	0%	0	0%

2 「学校応援コーディネーター」の人数

選択肢	小回答	小平均	中回答	中平均
合計・1校あたりの平均配置人数	1874	2.7	690	1.9

小・中学校合計・平均	2564	2.4		
------------	------	-----	--	--

3 「学校応援コーディネーター」の担い手

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
現PTA関係者	506	71.7%	304	85.6%
元PTA関係者（PTAのOBなど）	349	49.4%	165	46.5%
学校教育に理解のある地域住民	239	33.9%	35	9.9%
学校評議員・学校運営協議会等関係者	238	33.7%	82	23.1%
町内会長・区長・自治会長など	223	31.6%	24	6.8%
学校支援グループの関係者（「おやじの会」等の保護者による会やNPO団体等）	153	21.7%	31	8.7%
民生委員・児童委員	57	8.1%	13	3.7%
退職教職員	36	5.1%	11	3.1%
公民館等社会教育施設職員	22	3.1%	3	0.8%
行政関係者	9	1.3%	11	3.1%
商工会議所・青年会議所等の地元団体の関係者	4	0.6%	2	0.6%
企業関係者	3	0.4%	1	0.3%
その他	35	5.0%	8	2.3%

4 「学校応援コーディネーター」が行う業務

（複数回答あり）

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団」の活動に参画する地域の様々な団体・組織等との連絡・調整	496	70.3%	234	65.9%
地域や学校の実情に応じた「学校応援団」の活動の企画・立案	310	43.9%	189	53.2%
新たなボランティアの募集活動	295	41.8%	96	27.0%
家庭・地域に向けた「学校応援団」の活動の周知活動（広報紙の発行等）	169	23.9%	88	24.8%
ボランティア名簿の作成・管理	151	21.4%	46	13.0%
「学校応援団」の活動の記録簿等の作成・管理	100	14.2%	41	11.5%
コーディネーターの交代、複数配置等に向けた新たなコーディネーターの育成活動、引き継ぎ等	97	13.7%	41	11.5%
コーディネーターの複数配置校における、コーディネーター同士の連携	79	11.2%	27	7.6%
ボランティア対象の研修会や交流会の企画・運営	47	6.7%	11	3.1%
学校と「学校応援団」との調整役以外の業務は行っていない。	104	14.7%	63	17.7%
その他	13	1.8%	5	1.4%

5 「学校応援団」の活動に参加する方々が打合せや準備作業などに使用する場所

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
会議室や図書室、家庭科室等の教員・児童も使用する部屋を日常的に使用できるようにしている。	223	31.6%	70	19.7%
P T A等との共用の部屋を確保している。	122	17.3%	98	27.6%
余裕教室を転用した専用の部屋を確保している。	103	14.6%	69	19.4%
校舎に、「コミュニティールーム」のような専用のスペースが元々設定されている。	25	3.5%	4	1.1%
学校外の施設（公民館・市民センター等）が使用されている。	19	2.7%	7	2.0%
校地内の校舎とは別の建物（体育館・プレハブの建物等）にスペースを確保している。	13	1.8%	1	0.3%
場所は設定していない。	277	39.2%	143	40.3%
その他	25	3.5%	7	2.0%

6 今年度の「学校応援団」の活動

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学習活動への支援	693	98.2%	191	53.8%
安心・安全確保への支援	691	97.9%	278	78.3%
学校の環境整備への支援	658	93.2%	302	85.1%
体験活動への支援	560	79.3%	126	35.5%
学校ファームへの支援	398	56.4%	96	27.0%
環境教育への支援	237	33.6%	93	26.2%
部活動・クラブ活動への支援	161	22.8%	159	44.8%
生徒指導への支援	138	19.5%	96	27.0%
その他	44	6.2%	26	7.3%

7 「学習活動への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供への本の読み聞かせ	647	91.6%	57	16.1%
授業などにおける、学習活動の支援	505	71.5%	83	23.4%
校外で学習する際の子供の付き添い、安全の確保	488	69.1%	18	5.1%
授業などにおける、学習内容に関する専門的な知識の話や技術・技能の教示	398	56.4%	69	19.4%
放課後や週末、長期休業中における、宿題や補習などの支援	166	23.5%	50	14.1%
その他	29	4.1%	20	5.6%

8 「安心・安全確保への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
登下校時、通学路での安全確保	652	92.4%	160	45.1%
防犯パトロールを実施	465	65.9%	182	51.3%
登下校時、児童生徒の付き添い	419	59.3%	4	1.1%
その他	37	5.2%	34	9.6%

9 「学校の環境整備への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
除草作業や花壇などの整備	593	84.0%	269	75.8%
学校図書館の整備や図書の整理	370	52.4%	45	12.7%
樹木や生垣の手入れや剪定	343	48.6%	161	45.4%
教室や校舎の修繕	139	19.7%	53	14.9%
校庭の遊具の整備や管理の補助	105	14.9%	11	3.1%
その他	56	7.9%	22	6.2%

10 「部活動・クラブ活動への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
部活動やクラブ活動における、指導・助言や技術・技能の教示	155	22.0%	148	41.7%
部活動の大会などにおける、引率の補助	6	0.8%	52	14.6%
その他	11	1.6%	8	2.3%

11 「学校応援団」に対するお礼の活動等について

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「感謝の会」を開くなど、感謝の気持ちを伝える場を設定	556	78.8%	47	13.2%
感謝の気持ちを表した手紙等の作成・贈呈	548	77.6%	88	24.8%
給食を準備し、児童生徒と一緒に食べる場を設定	238	33.7%	15	4.2%
感謝の気持ちを伝えるため、支援していただいている方の自宅や施設等を訪問	39	5.5%	6	1.7%
特にそのような機会は設けていない。	47	6.7%	213	60.0%
その他	25	3.5%	18	5.1%

12 「学校応援団」の活動に係る話し合いを行う場(「会議」)への対応

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団会議」や「学校応援団連絡協議会」等の場を設けている。	491	69.5%	209	58.9%
「会議」は行っていない。	215	30.5%	146	41.1%

13 今年度の「会議」の開催回数・平均

選択肢	小回答	小平均	中回答	中平均
今年度の「会議」の開催回数・平均	1359	2.8	783	3.7

14 いじめの未然防止のための取組について

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校応援団に係る会議等で、情報提供の協力を依頼	372	52.7%	172	48.5%
「いじめ防止対策推進法」に基づいて作成した「いじめ防止基本方針」の中に、学校応援団による協力などについて記載	213	30.2%	88	24.8%
特に実施していない。	222	31.4%	134	37.7%
その他	19	2.7%	9	2.5%

15 「地域人材」を活用した支援活動の結果という視点から「成果」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供の多様な体験や経験が増加した。	637	90.2%	230	64.8%
学習活動の支援により、子供の学習意欲が向上した。	587	83.1%	160	45.1%
子供の地域への理解・関心が深まった。	452	64.0%	188	53.0%
「地域人材」を授業等で活用する「よさ」について、教員の理解が深まった。	414	58.6%	103	29.0%
専門的な知識や技能が授業に活用されることにより、授業の質が向上した。	343	48.6%	63	17.7%
学校や教員の負担が軽減された。	330	46.7%	123	34.6%
子供のコミュニケーション能力が向上した。	281	39.8%	117	33.0%
子供の学力や体力が向上した。	181	25.6%	48	13.5%
教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができた。	105	14.9%	51	14.4%
不登校やいじめなど生徒指導上の課題が減少した。	60	8.5%	22	6.2%
その他	16	2.3%	6	1.7%

16 学校と家庭・地域との連携という視点から「成果」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校の教育活動への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解や信頼が深まった。	646	91.5%	291	82.0%
保護者や地域の方が来校することにより、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。	643	91.1%	303	85.4%
保護者や地域の方の「生きがい」や「やりがい」などにつながった。	438	62.0%	88	24.8%
子供を地域ぐるみで育てるという教職員の意識が高まった。	381	54.0%	143	40.3%
地域で子供を育てる意識が向上した。	306	43.3%	111	31.3%
子供が地域の行事に積極的に参加するようになった。	197	27.9%	109	30.7%
地域コミュニティが活性化した。	136	19.3%	38	10.7%
その他	14	2.0%	4	1.1%

17 「学校応援団」の活動の充実にあたって「課題」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
ボランティアを集めること	470	66.6%	164	46.2%
学校応援コーディネーターとして依頼できる人材確保	419	59.3%	178	50.1%
学校応援コーディネーターやボランティアとの打ち合わせや調整時間の確保	412	58.4%	144	40.6%
「学校応援団」運営のための予算確保	268	38.0%	130	36.6%
「学校応援団」の活動内容を充実させること	250	35.4%	135	38.0%
「学校応援団」に支援していただく内容を明確にすること	209	29.6%	79	22.3%
「学校応援団」が使用する専用の場所の確保	208	29.5%	59	16.6%
地域の方の理解や協力を得ること	175	24.8%	74	20.8%
P T Aや保護者の理解や協力を得ること	145	20.5%	78	22.0%
教職員の理解や協力を得ること	113	16.0%	83	23.4%
学校応援コーディネーターの力量や意欲を高めること	98	13.9%	43	12.1%
企画・運営委員会や職員会議等での検討	92	13.0%	44	12.4%
参考事例となる情報やノウハウ・ツールの不足	48	6.8%	21	5.9%
学校経営方針への位置づけ	36	5.1%	35	9.9%
課題として考えられることはない	5	0.7%	9	2.5%
その他	21	3.0%	5	1.4%

☆ トピック1 ☆

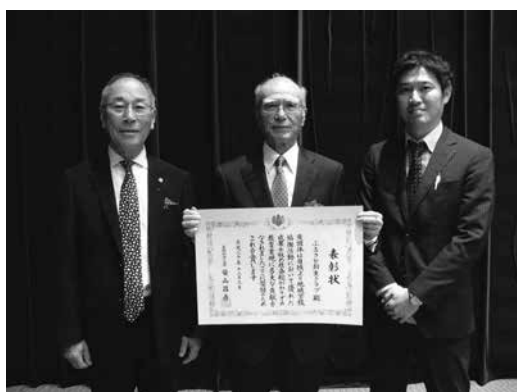
「地域学校協働活動」推進に係る 文部科学大臣表彰

地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現を目指すことを目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動（「地域学校協働活動」）のうち、その内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰しています。

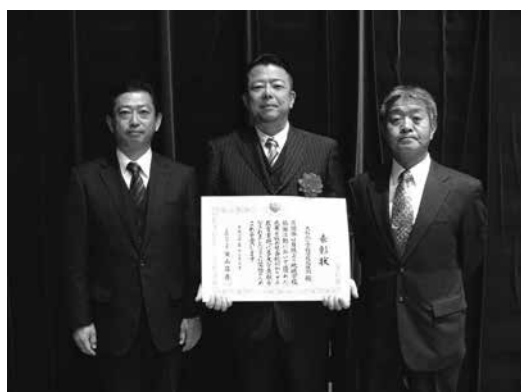
表彰の対象は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6に基づく学校運営協議会を設置している、または設置を予定している学校と地域が連携・協働して行われている地域学校協働活動のうち、他の模範と認められるものとなっています。

平成30年度は、埼玉県から推薦された団体（活動）として、「ふるさと創生クラブ（行田市）」「大石北小学校学校応援団（上尾市）」「西堀小学校学校応援団（新座市）」の3団体（活動）が表彰を受けました。

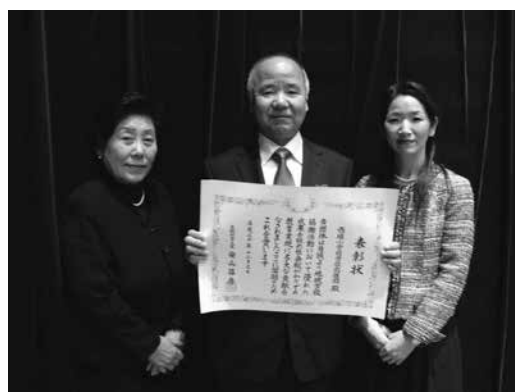
平成30年12月3日に、
文部科学省3階講堂にて
表彰式が行われました。



「ふるさと創生クラブ」
左：滝口副代表理事
中：今村代表理事
右：嶋田行田市教委主任



「大石北小学校学校応援団」
左：太田校長
中：竹村学校応援団長
右：谷島学校応援団コーディネーター



「西堀小学校学校応援団」
左：永井コーディネーター
中：平岡校長
右：河口PTA会長

各団体（活動）の具体的な取組は、県生涯学習推進課ホームページ「優秀な学校・団体の表彰」をご覧ください。

第3 「学校応援団」の実践事例

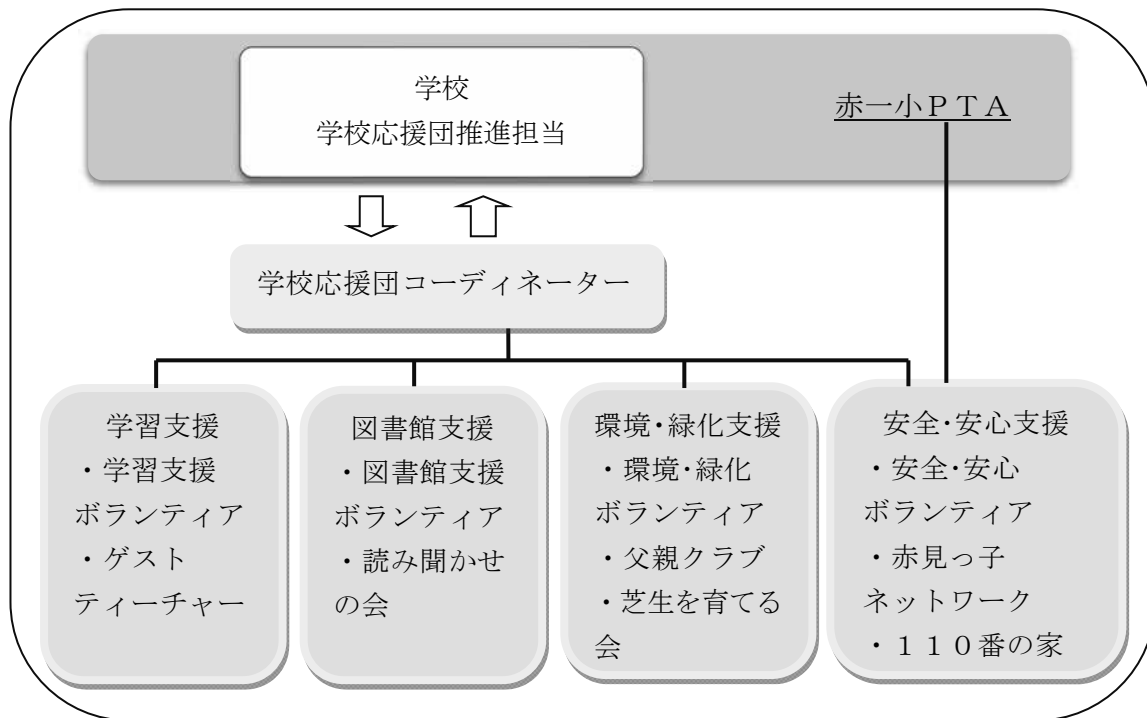


読み聞かせクリスマススペシャル
久喜市立栗橋小学校

鴻巣市立赤見台第一小学校の実践

1 児童数・学級数 325名・14学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	現PTA関係者（4）
行っている業務	○個々のボランティアとの連絡・調整 ○学校応援団推進担当（学校）との連絡・調整 ○支援ボランティアの募集

4 実施に当たっての工夫

(1) 「こども110番の家」協力者を含めた会議の開催

本校では、日々安全・安心ボランティアの方々に登下校時のパトロールをしていただいている他、年に2回、「赤見っ子の安全を守る地域ネットワーク」連絡協議会を開催している。この会議には、ボランティアの代表、交通指導員、スクールガード・リーダー、警察、各自治会長、PTA役員その他、「こども110番の家」協力者にも参加していただいている。会議では、現在の取組の状況、児童の様子についての意見や情報交換を行い、子どもたちの安全を守るための有意義な会議となっている。学校としても、安全面ばかりでなく、健全育成の視点からも地域における児童の様子を知ることができる貴重な機会となっている。



【第1回連絡協議会】

(2) 目標の共有、子どもたちへの学校応援団ボランティアの周知



〔児童との対面式〕

年度当初に「学校応援団ボランティア打合せ会」を開催し、「学校と家庭・地域社会との関わりを深め、地域と共にある学校づくり」という目標のもと、活動内容や留意事項等の共有を図っている。また、コーディネーターの方にはその場で委嘱状も交付している。

その後、業前の時間を活用して「児童との対面式」を行い、ボランティアの方々の紹介と活動内容の概要説明をして子どもたちへの周知を図っている。

5 特徴的な活動内容

(1) 学習活動への支援



〔校外学習引率支援〕



〔家庭科(ミシン)支援〕



〔読み聞かせ〕

学習支援では、家庭科における裁縫・ミシン、調理実習などの補助や、校外学習の引率補助をお願いしている。また、図書活動支援では、読み聞かせの他、図書の修繕、整理など図書室の環境整備も定期的に行っていただいている。

(2) 学校環境整備への支援

本校では、随時、環境・緑化ボランティアを募集し、花壇の整備を行い、子どもたちが四季折々の草花を楽しんでいる。

また、校庭が芝生化されており、「芝生を育てる会」の方々にその管理をしていただいている。地域のボランティアや「父親クラブ」の皆さんに常にきれいな芝生の状態を保ってもらっており、この芝生が本校の自慢となっている。



〔花植え作業〕



〔芝生の手入れ〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・学習支援により、授業の充実、安全確保が図られ、本に親しむ豊かな体験など、子どもたちのより生き生きとした活動が展開できた。
- ・豊かな環境と安全・安心が確保され、芝生や花壇の草花など、さわやかに整えられた落ち着いた環境の中で子どもたちが学習に取り組むことができた。
- ・子どもの安全確保について、地域との情報交換が行われ、連帯感も強まってきた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

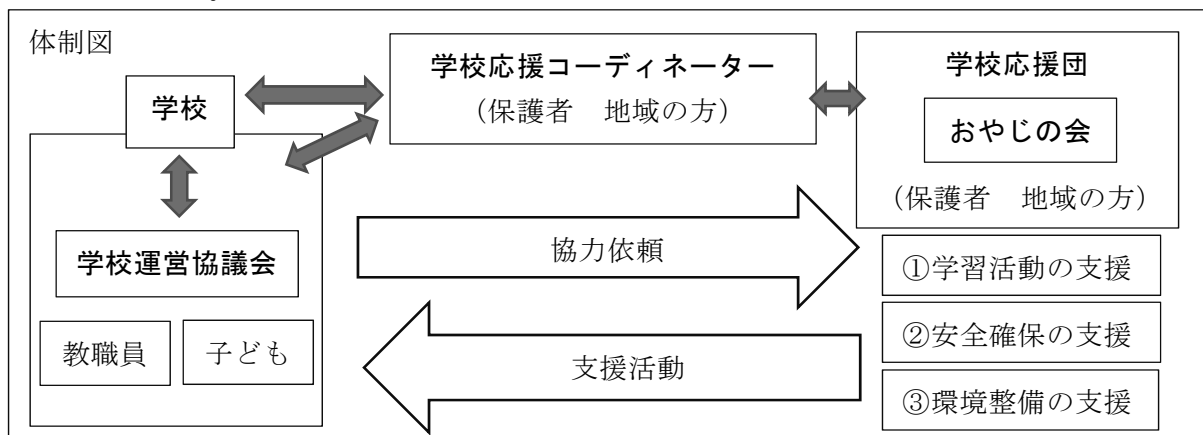
- ・本校の卒業生ですが、どの学年の子どもたちも、この校舎で楽しそうに学習している姿を見ることができて、とてもうれしく思っています。
- ・運動会に招待されましたが、芝生の上で元気よく運動している様子を見て、自分も元気ももらいました。これからも芝生をきれいに整備していきたいと思いました。

戸田市立芦原小学校の実践

1 児童数・学級数 693名・22学級

2 体制図

本校は、開校当初から「コミュニティ・スクール推進事業研究指定校」として、地域の人材や施設などを生かした教育活動に積極的に取り組んできた。その中で学校応援団は、①学習活動、②安全確保、③環境整備等で、年間延べ2500名以上のボランティアの協力をいただいている。



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	3名
担い手	地域の有志(1)、元PTA会長(1)、保護者(1)
行っている業務	学校との連絡・調整 ボランティアの募集・取りまとめ 各ボランティアへの連絡・調整 実際の活動における支援

4 実施に当たっての工夫

今年度より、学校応援コーディネーターを3名体制にし、負担軽減や活動の充実を図っている。また、学校応援団会議を定期的に持つことで、学校や学年からの要望を伝えたり支援に当たっての留意点などの確認をしたりすることができた。

月	活動内容
4	○学校応援コーディネーターの決定○第1回学校応援団会議 学校応援団募集 ○3年社会：町探検○PTA総会・ティーパーティー・学校応援団結団式
5	○5年総合：福祉体験(点字、車椅子、ガイドヘルプ等) ○1年生活：公園探検 ○地域連携朝会(交通指導員紹介)
6	○第2回学校応援団会議 ○6年総合：笹目川について(公園河川課職員の話)
7	○全学年体育：スイミングサポート ○笹目川舟下り体験○1年生活：公園探検 ○全学年：保護者共同安全点検○着衣泳指導 ○5年総合：福祉体験
8	○トイレ清掃ボランティア○第3回学校応援団会議
9	○クリーン大作戦(除草作業)○戸田音頭指導 ○町会より運動会太鼓借用○学校周囲植え込み剪定作業 ○運動会協力・戸田音頭参加○6年家庭：ミシン学習支援

通年の活動

- 読み聞かせ「はらっぱ」
- 朗読「おはなしの泉」
- 授業参観・懇談会時の託児
- 登下校時の見守り
- グッドモーニング運動

10	○第4回学校応援団会議○1年生活：さつまいも堀補助○就学時健診補助
11	○2年生活科：校外学習別所沼公園○校内音楽会○学校公開日駐車場整理 ○ブルーフェスティバル○1年生活科：公園探検
12	○3年以上書写：書きぞめサポート○2年生活：大根堀り○校内持久走大会補助 ○1年生活：昔あそび体験○5年総合：茶道体験○トイレ清掃ボランティア
1	○造形フェスティバル○第5回学校応援団会議○5年総合：華道体験
2	○4～6年音楽：箏レクチャー&コンサート
3	○トイレ清掃ボランティア ○第6回学校応援団会議

5 特徴的な活動内容

(1) 学習活動の支援

- ・市役所職員による笹目川についての話
戸田市役所道路河川課の方々による、特別な出前講座を実施。6年生の総合における導入として、戸田市を流れる「笹目川」について詳しく説明していただく。
- ・戸田市漁業協同組合による、笹目川舟下り体験
6年生の総合で、笹目川の環境や、関わる人々について学ぶために、漁協の方による舟下り体験を実施している。
- ・読み聞かせグループ「はらっば」の活動
開校当初から行っている読み聞かせグループの活動で、毎週水曜日、朝の読書タイムに、低学年を中心に絵本の読み聞かせを行っている。
- ・書きぞめサポート
3年生以上の書きぞめの学習で、保護者の方に支援をいただいている。特に初めての書きぞめを行う3年生には、準備から、後片付けまで、きめ細やかに支援していただき、担任は、指導に集中できている。



〔市役所職員による笹目川の話〕



〔漁協による笹目川舟下り体験〕



〔地域団体による読み聞かせ〕

(2) 安全確保の支援

- ・保護者との共同安全点検
7月の授業参観・懇談会の後に、毎月の安全点検を、保護者の方と一緒にやっている。保護者の目線で実施することで、普段は見過ごす点にも気づくことができる。

(3) 環境整備の支援

- ・トイレ清掃ボランティア
長期休業前に、児童用トイレの清掃をしていただいている。普段は児童が掃除しているため、行き届かない箇所を大人の手できれいにしていただき、気持ちよく新学期が迎えられる。〔保護者による書きぞめサポート〕



6 成果と地域の方々の声

(1) 成果

- ・学校応援団の活動に参加することで、学校の教育活動を知っていただくよい機会になっている。また、参加することで、学校・家庭・地域の三位一体で子供の成長を見守る意識が高まっている。

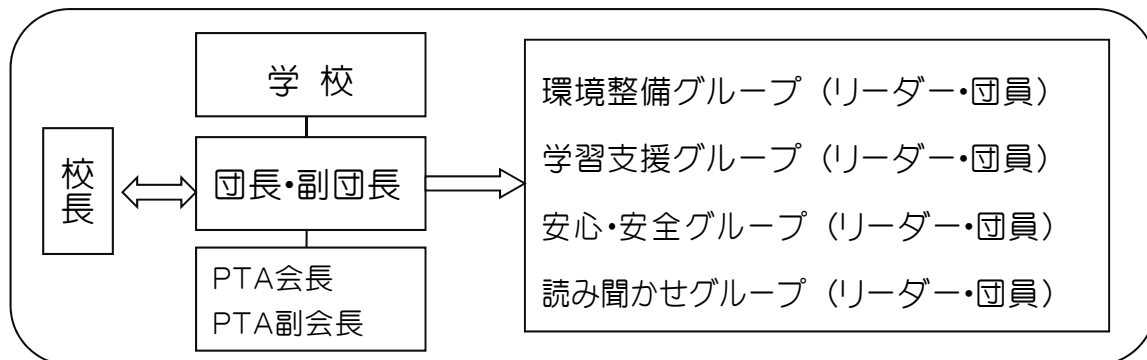
(2) 地域の方々の声

- ・普段の児童の学習の様子を間近に見ることができてよかった。学校以外で会っても、元気に挨拶をしてくれる。地域で子供たちを見守っているものとして、とてもうれしい。
- ・先生方が、子供たちの指導に専念できるように、自分たちができることはこれからも協力していきたい。

和光市立白子小学校の実践

1 児童数・学級数 518名・18学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	7名
担い手	元PTA会長（1）、自治会役員（2）、主任児童員（1） 地域支援者（2）、スクールガードリーダー（1）
行っている業務	・年間活動計画の作成 ・学校担当者との連絡調整 ・活動時のグループ団員との連絡調整 等

4 実施に当たっての工夫

- (1) 自校の学校応援団実施要項に基づき年度初めに学校応援団の募集を行い、新体制を組織している。
- (2) 新しい組織での学校応援団総会を実施している。総会では、各グループで年間活動計画について話し合いを行い、見通しをもって活動ができるようにしている。
- (3) 円滑な連絡・調整ができるように、学校のメール配信を活用した応援団グループメールへの登録を進めている。
- (4) 学習支援については、学校からの依頼に基づく活動が中心となるが、その他の支援については、各グループの自主的・主体的な活動がより多く実施できるようコーディネーターと学校との調整を図っている。

5 特徴的な活動内容

- (1) 自主的な花壇整備・樹木剪定
 - ・毎年、地域の方々に環境整備で協力をいただいている。校庭の樹木の剪定では専門的な経験を活かし、時季に合わせた剪定をしてもらっている。また正門横の花壇には、四季折々の花々を計画的に植え替えている。



〔樹木の剪定の様子〕



〔環境整備の方々〕

(2) 夏の算数教室支援・まちの名人（ゲストティーチャー）

- ・夏の算数教室や家庭科のミシン協力等様々な機会、学校応援団に登録された方々に授業の支援やサポートをお願いしている。3年生の総合学習「まちの名人から学ぶ」では、子どもたちの希望を基に、学区内にいらっしゃる多くの方々に協力を得ている。



〔夏の算数教室支援〕



〔ゲストティーチャー琴名人〕

(3) 学期初めのあいさつ運動・登校時の見守り

- ・毎学期初めのあいさつ運動には、民生委員児童委員、学校応援団、地域の方々が、朝の声かけ運動に参加している。
- ・登校時の見守りとしてスクールキッズガーディアンの方が毎朝、学校の前まで付添い、安心・安全に貢献している。



〔あいさつ運動〕



〔登校時の見守り〕

(4) 朝の時間を活用した読み聞かせ

- ・毎週月曜日に朝読書の時間を設定している。読み聞かせグループの方々が、各学期の計画に基づいて、読み聞かせを行っている。また2学期には、白子小に縁の大石真にちなんだ読み聞かせを行っている。



〔朝の読み聞かせ〕



〔読み聞かせ〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・地域の方々がもっている技能を生かし、様々な学習の機会に多くのご支援をいただいたおかげで、充実した体験活動が実施できた。
- ・主体的に環境整備に努めていただいたことで、年間を通し、よりよい学校環境を整えることができた。
- ・毎朝の通学班の見守りや校外学習時の移動の見守りによって、交通事故もなく充実した学習活動が進められた。
- ・地域の方や保護者が教育活動に参加する機会が増えたことで、学校教育活動、そして、児童の様子の理解が深まった。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・子ども達と関わる機会をたくさんもったことで信頼関係が築け、学校外でも、進んであいさつをしたり、自分から声をかけたりしてくる子どもが増えてきた。
- ・地域、保護者が、これまで以上に自分たちも楽しみながら主体的な活動をしたいという願いを基に、応援団組織の一つとしての「おやじの会」結成に向けて準備をすすめている。

新座市立栄小学校の実践

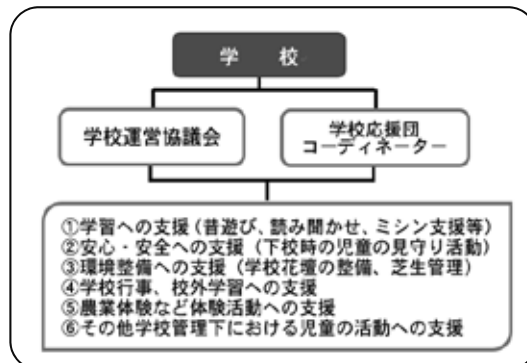
1 児童数・学級数 298名・11学級

2 体制図

本校の学校応援団は昨年度まで学校の下に学校応援団コーディネーターを据えるオーソドックスなスタイルで運営してきた。

しかし、年々、学校応援団員の高齢化や関わる人が減少傾向にあるといった課題を抱えていた。

そこで、本年度より始まった学校運営協議会を生かし、右のような新たな体制へと再編成した。



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	3名
担い手	社会体育関係者(1)、元PTA役員(1)、PTA会長(1)
行っている業務	○学校(担当者)との連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整

4 実施に当たっての工夫

(1) 学校運営協議会を生かす～目標、目指す理念の共有化～

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会、地域を創るという目標をもち、教育課程を介してその目標を地域社会と共有していくことを本年度より新設された学校運営協議会で共通理解を図った。

特に、以下の2つの視点での確認を行った。

○本校を中核とする地域が児童にとって、将来、『ふるさと』となること。その『ふるさと』への帰属意識を高め、次代の担い手となる人材を学校と地域住民が手を取り合って、総掛かりで育成していく必要があること。

○栄地区は市内でも高齢化率が高い地域であり、高齢者をはじめ地域住民と児童が関わり合う機会を多く作っていくことや、児童も関わる人たちも互いに自己有用感が高まるような取組を実施していくことで、絆を深め合い、相互に安心・安全な生活ができるようにすること。

(2) コーディネイト上の工夫

これまで、学校応援団コーディネーターはいるものの、学校応援団の方々に活動していただく活動内容も、学校応援団員も固定化していた。そのため、学校から直接学校応援団員の方々に連絡を取ることが多く活動自体の広がりが見られなかった。児童、保護者、地域住民、さらには教職員の認知度も低く、学校応援団員の方々の自己有用感も高まりづらい状況にあった。

そこで、学校運営協議会委員の方々が各地域の代表者であることを生かし、学校が行おうとしている取組の意義を説明し、各活動に必要な人材を集めていただくようにシステム



【学校運営協議会の様子】

を変更した。取組にあたって理念を共有化している学校運営協議会委員の方々が自治会の集まりなどで説明をするようにしてきたことで、一定数の協力者の方を集めることができるようになった。

(3) 活動の可視化

先に記したように、学校応援団の取組自体が硬直化し、認知度も低くなっていた。そこで、これまで別々に行われていた児童や保護者、地域住民、学校応援団の活動をできるだけ合同で実施できるように工夫した。

また、学校応援団のビブスや専用の名札を作成し、学校応援団員が活動していることが分かるように努めた。



〔学校応援団ビブス作成〕

5 特徴的な活動内容

(1) 「親子・地域ふれあい除草」の実施

昨年度まで違う日に実施していた除草活動を同一日に実施し、校内放送を使ってどのような団体が参加しているか、日頃どんな協力をしてもらっているかなど、紹介する機会を夏季休業中に設定した。

また、はじめの会、終わりの会などに学校運営協議会委員長、学校応援団コーディネーター、PTA会長、児童代表が話す機会を取り、互いに手を取り合って『ふるさと』づくりをしていくことを確認し合うことができた。

また、これまでつながりがなかった方々がこの機会を通して知り合うことができ、絆を紡ぐ第一歩となった。



〔運営協議会委員長の話〕



〔参加した児童や保護者〕

(2) カリキュラムマネジメントの実施

本年度はこれまで以上に授業の中に学校応援団の方々に入っていただくよう、コーディネートしてきた。5年生国語科の授業では、「よりよい地域にするために、自分たちができることやしたいことを考え、地域のみなさんへの提案を書こう。」と提案する相手を学校応援団とした。児童は相手意識が高まり、進んで自分自身や地域の実態を調べ、提案することができた。また、提案を聞いた学校応援団の方々も児童のよさを認め励ます話をしてくださった。その一方で、地域住民としての願いも伝えてくださった。互いに思っていることを伝え合うことでより絆が紡がれていくことがわかった。

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

学校運営協議会の中で、「社会に開かれた教育課程」実現のための理念の共有化を図り、その上で学校応援団のコーディネートに携わっていただいたことで、これまで以上に多くの地域住民が学校と連携して教育活動に関わることができた。さらに、学校応援団の活動への認知度も高まり、地域総掛かりで次代を担う人財を育成しようという機運が高まった。

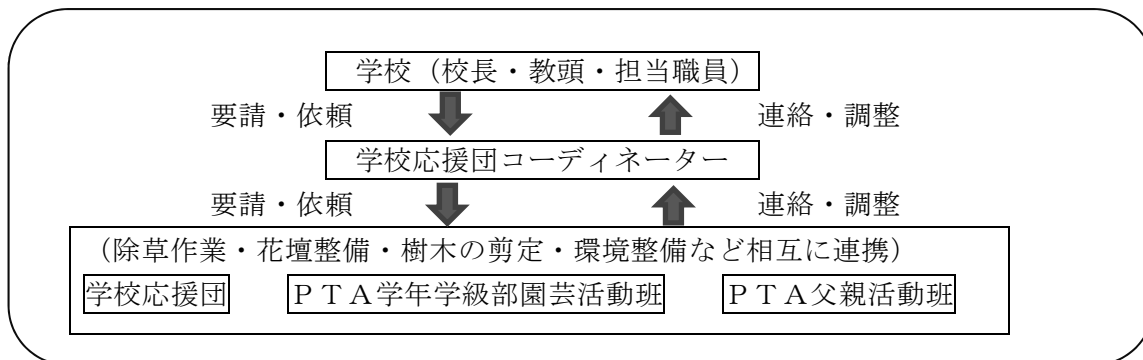
(2) ボランティアさんの声（感想）

5年生の学習に参加して、子供たちが地域のことをこんなに考えていることに驚いた。私たちもできることを一緒に考え、子供たちが大切にできる『ふるさと』づくりに参加したい。

桶川市立桶川中学校の実践

1 生徒数・学級数 531名・17学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	元保護者（1）、P T A 役員（1）
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の応援団担当職員との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

(1) コーディネート上の工夫

学校応援団の登録者と学校との調整役として、「学校応援団コーディネーター」を学校が依頼している（任期は1年とし、再任を可としている）。コーディネーターも応援団の一員なので、一人の人に負担がかからないよう複数の人にコーディネーターをお願いするとともに、P T Aの役員など学校の事情に精通している人を人選している。

(2) 目標や情報の共有

P T A活動としての環境整備と、除草や樹木の剪定など応援団としての活動を相互に行っているため、学校とコーディネーターとの間で定期的な打ち合わせを行い、活動内容の確認や情報の共有を図っている。

(3) 学校応援団活動の積極的な広報

学校応援団活動の「見える化」を意識し、活動内容を「学校ホームページ」や「学校だより」等で情報発信するなど、積極的な広報活動に努めている。

5 特徴的な活動内容

(1) 環境整備への支援

校舎内外の環境整備を中心に活動を行っている。具体的な活動としては、校舎内では昇降口の生徒用下駄箱や廊下・階段壁面のペンキ塗り、校舎外では校地内の側溝の清掃、樹

木の剪定や落ち葉掃きを行っている。また、PTA学年学級部の園芸活動班が行っている「夏休み親子クリーン活動」や、年3回行っている「花壇整備」への協力も行っている。

全ての活動にPTA父親活動班（通称「父活」、父親の有志による集まり）の協力を得ており、今年度は台風で倒れたタイサンボク（校木）の撤去作業や新たな校木の植樹事業なども行った。



〔昇降口・階段のペンキ塗り〕



〔側溝清掃〕



〔樹木の剪定〕

（2）図書室運営の補助

昨年9月には図書ボランティアも組織され、図書室の蔵書点検を中心に年間で4回の活動など、図書室運営の補助を行った。また、図書ボランティアからの発案で図書ボランティア研修会を開催し、市立図書館の指導者を招いて、破損した図書の修繕方法についての研修なども行った。



〔図書ボランティアによる蔵書点検の様子〕

6 成果と地域の方の声

（1）成果

花壇整備などの園芸活動や環境整備を生徒・保護者・学校応援団が共に行うことで、互いの交流が図れた。特に生徒にとっては、花植えや除草、落ち葉掃きを地域の方と共に行うことで、やさしさや思いやりの心の成長が見られた。

本校職員と地域の方がともに活動することを通して「学校の敷居」が低くなり、地域の方々との信頼関係が深まるとともに、開かれた学校づくりがさらに進んだ。

自分の子供が学校を卒業した後も学校の活動に関わる機会を設けることで、学校・家庭・地域の一体感を醸成することができた。

（2）ボランティア・コーディネーターの声（感想）

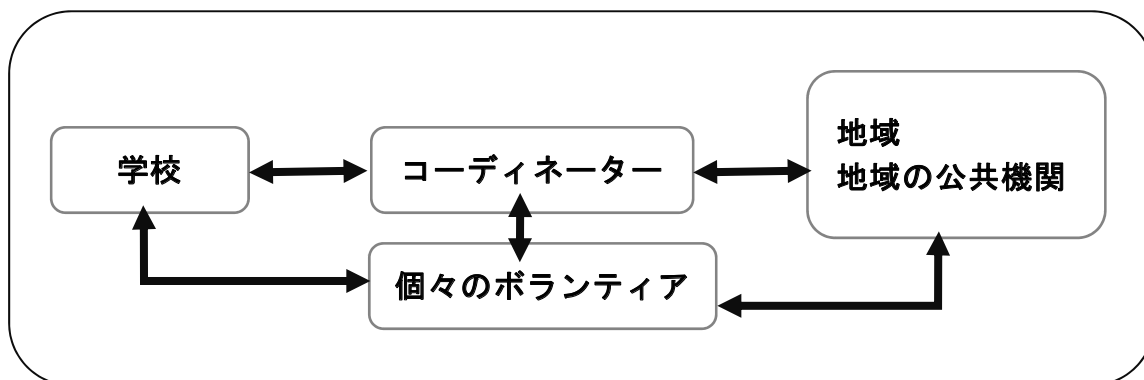
コーディネーターとして、学校応援団の活動がスムーズに行われるよう学校との打ち合わせを定期的に行いました。打ち合わせ時間の調整など大変なこともあったが、活動後に先生やボランティアの方々からねぎらいの言葉をかけられ、この仕事にやりがいを感じています。

子供たちはいつも元気にあいさつをしてくれます。子供たちと一緒に活動できることを楽しみに、学校応援団活動に参加しています。これからも都合が合えば、学校応援団の活動に協力していきたいと思えます。

北本市立東中学校の実践

1 生徒数・学級数 527名・17学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	卒業生の保護者（1）
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校（担当者）との連絡・調整 ○ 個々のボランティアとの連絡・調整（日程含む） ○ 新たなボランティアの募集活動 ○ 外部団体との連絡調整

4 実施にあたっての工夫

（1）コーディネート上の工夫

コーディネーターについては卒業生の保護者に依頼している。そのことでコーディネーター自身が自校の様子や学校の流れを理解している。そのため、学校側との連携もスムーズであり、依頼内容を具体的に伝えることができる。さらに、コーディネーター側からも学校施設の内部の様子をよく理解していることから、作業のイメージがしやすいという利点がある。

（2）目標の共有について

共有している目標は『生徒が安心・安全・快適に過ごせる学校づくり』である。

年度の初めに学校応援団のメンバーを確認するとともに、年間の活動日程また活動目標について共通理解する場を設けている。本校では、除草を中心とした環境整備に力を入れている。また、随時、学校応援団メンバーと活動についての意見を交換するようにしている。そのことで目標や具体的な活動内容について、追



【環境整備の様子】

加・修正を行い、より効率よく、活動が行えるようにしている。

5 特徴的な活動内容

(1) 環境整備

活動は1ヶ月に1度(第3木曜日)程度であり、主な活動内容は「除草作業」を中心とした環境整備である。専門的な地域の方に依頼し、チェーンソーなどの専門的な道具を利用した技能を生かした活動を行っている。本年度は、学校の外観を中心に整備した。

(2) PTAと連携したバザー品の作成

毎年11月に行われるPTAバザーに向け、学校給食で使われた油の廃油を利用して、石けんを作っている。本年度は市内の公共機関からも賞味期限切れの油をいただき、石けんづくりに活用した。バザーへの参加を通して、参加者同士の豊かな交流が図られ、「学校応援団」の活動への参画意欲の向上につなげることができた。



【手作りの石けん】

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

ボランティアの数や実施日数は少ないが、学校関係者(卒業生の保護者や地域の方々)が多く、とても意欲的に活動していただいている。特に体育祭や合唱コンクール・保護者会などの行事の前には重点的に環境整備を行っていただき、来校者にとって「環境の整った学校」という印象を与えることができたと考えている。また、普段生活している生徒にとっても、「よりよい環境」で生活することは学習意欲の向上や生徒の環境整備の促進などにつながっている。

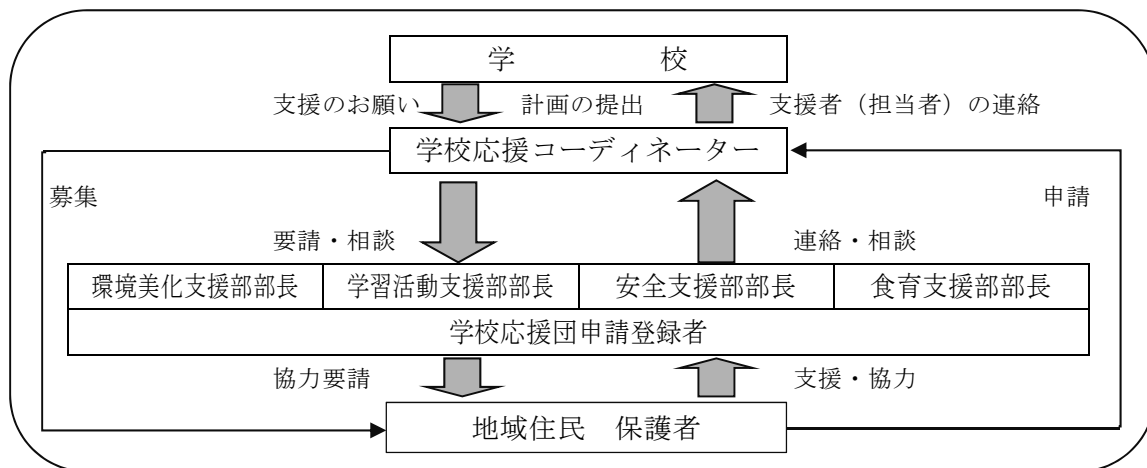
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

- ・人数は少ないですが、その分、和気あいあいと活動できています。今年度は新たに学校の近所の方に参加していただき、樹木の剪定など活動の幅が広がりました。また、バザーでは本年度も手作りの石けんを販売し好評でした。来年もさらに活動の幅を広げていきたいです。(コーディネーター)
- ・暑い中や寒い中での活動は大変ですが、子供たちが喜んでくれると考えると張り合いがあります。東中学校の生徒はあいさつをよくしてくれるので、がんばって活動できます。参加できないときもありますが、今後できるだけ参加して学校のためにお手伝いしたいです。(ボランティアさん)
- ・秋から冬にかけては落ち葉が多く、落ち葉はきが追いつかないことがあります。でも、この学校の生徒は率先して落ち葉掃きを手伝ってくれるので、少ない人数、回数でも学校をきれいにすることができました。(ボランティアさん)
- ・とても楽しく活動させていただいております。子供がお世話になった学校への恩返しと考えております。微力ですが、これからもお手伝いさせていただきます。(ボランティアさん)

伊奈町立小室小学校の実践

1 児童数・学級数 597名・21学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	学校評議員
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整

4 実施に当たっての工夫

(1) 学校応援団全体会議

学校応援団の方々と年度の初めと終わりの2回、全体会議を行っている。1回目は各部長を決め、活動内容を確認する。また、学校応援コーディネーターにメールを送信して登録が完了する。2回目は1年間の振り返りをして、来年度の活動につなげていく。

(2) 学校応援団計画書

学校応援団に協力をお願いするときには、「学校応援団計画書」を担当が作成し起案をする。起案が終わったら、学校応援コーディネーターに計画書をメールで送り、依頼をする。この計画書で学校応援コーディネーターや学校応援団の方々とスムーズに連絡が取れている。



〔学校応援団計画書〕

5 特徴的な活動内容

(1) 環境美化支援部

夏休み前に教室のカーテン洗いをお願いし、夏休みに入ってから洗っていただくことで2学期をさっぱりとした教室環境で迎えられた。落ち葉掃きは、持久走大会前に学校周りの走路となる場所を職員と一緒に掃いていただいた。花壇は、プランターの花の植え替え時に花の苗を植えていただき、花いっぱい正面玄関になった。

(2) 学習活動支援部

高学年の家庭科の授業でミシン操作の補助をしていただいた。児童に操作の方法や、縫

い方を教えていただき児童も安心して学習を進めることができました。3年生の算数のコンパスを使う授業では、コンパスで円をなかなかうまくかけない児童にコンパスの持ち方や動かし方など丁寧に見ていただいた。ボランティアの方々の支援のおかげで児童は自分でやり遂げた達成感を味わうことができました。

朝の読書の時間には、低学年を中心に読み聞かせボランティアの方々に本を読み聞かせていただき、朝の短い時間だが楽しみな時間になっている。また、図書室には、図書ボランティアの方々が本の修繕や整頓にきてくださり、整った環境で児童は本を選んだり、学習したりすることができた。

(3) 安全支援部

児童の登下校を地域の防犯ボランティアの方々が事故のないように見守ってくださっている。

校外学習における児童の歩行の安全の見守りもご協力いただいている。1年生の校外学習では公園内の見守り、3年生の校外学習では、電車に乗る際の安全や見学する店内の見守りもご協力いただいた。児童は安心して学習することができた。

交通安全教室や自転車免許制度講習会でも自転車の正しい乗り方を学ぶ児童を支援していただいた。

(4) 食育支援部

本校の特色として食育の取組がある。こむろ農園で大根、サツマイモ、ナス、ピーマン、ブロッコリー等の野菜づくりを支援していただいている。学校応援コーディネーターから種や苗の植え方や収穫の仕方を教わりながら体験することができた。できた野菜でスイートポテトをつくったり、収穫した野菜が給食の食材になったりと味わう喜びも体験することができた。

(5) その他

学校から直接連絡を取り、ご協力いただいている団体もある。スイートポテトづくりの際のJA女性部、伊奈町音頭のレクリエーション協会、福祉体験の社会福祉協議会、田植え・稲刈りの町役場産業振興課等、有意義な学習をすることができている。

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

校内の学習環境や学習活動、登下校や校外学習時の安全等、応援団の方々により本校の教育活動へのサポートをいただき支援体制ができてきている。学校応援団の活動を通して保護者や地域の方々に本校の教育活動を知っていただくことができた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

子どもたちが、ミシンを前に真剣に学習していました。子どもたちを知っているので気軽にわからないときは声をかけてくれて、楽しくできました。（ミシン補助ボランティア）

防犯・安全ボランティアを立ち上げたときから見守っているけれど、あいさつしてくれたり、こちらをねぎらってくれたりする子もいてうれしいです。（安全ボランティア）



【算数学習補助】



【読み聞かせ】



【校外学習安全支援】

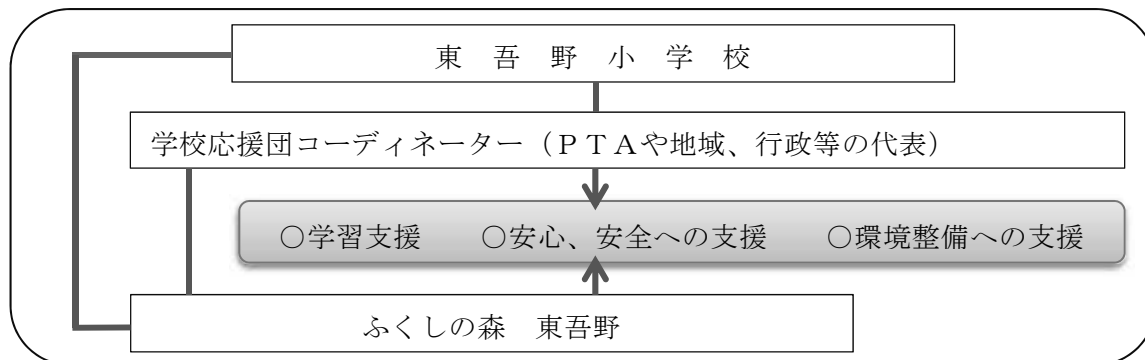


【食育支援】

飯能市立東吾野小学校の実践

1 児童数・学級数 27名・4学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	6名
担い手	現PTA役員(2)、学校評議員(1) 行政センター所長(1)、自治会長(1)、民生児童委員長(1)
行っている業務	○学校(担当者)との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集

4 実施に当たっての工夫

(1) 二つの組織との連携

本校は、学校応援団と地域の福祉団体である「ふくしの森・東吾野」の二つの組織が協力し合って活動している。「ふくしの森・東吾野」は、地域住民相互の支えあいによる地域福祉(地域づくり)を行っている。そこで、学校内の組織である学校応援団の活動へ協力を頂くことにより、地域全体として児童の育成を行っている。

(2) 保護者や地域との連携

保護者や地域に学校の教育活動を開き、連携を一層深めることにより、学校と保護者、地域が一体となって児童の育成を推進する。

5 特徴的な活動内容

(1) 学習活動への支援

総合的な学習の時間での学習支援をはじめ、体育の水泳学習やクラブ活動等においても多くの方がゲストティーチャーを務めている。

特に本校で特徴的なのは、豊かな自然を活かしたホタルの飼育活動である。元多摩動物公園飼育員の方のお世話になりながら、昭和59年



〔総合的な学習の時間におけるホッケー指導〕

から35年間飼育活動を行っている。児童は、水温、気温、水路の点検、鯉のえさやり等の記録を通年で毎日行っている。6月中旬には、地域の方や保護者、児童、職員と一緒にホタル鑑賞会を行い、12月の授業参観では、5、6年生がホタルについて1年間学習したことを発表する。

(2019年3月31日で閉校となるため、今年度は1学期のホタル観賞会の後、ホタルの飼育を終了した。)

(2) 児童の安心、安全への支援

学区が広い上に児童数が少ないため、登下校時の安全を心配する声もある中で、「ふくしの森・東吾野」の方々が中心となって、30名を超える多くの地域の方々が、毎日の登下校の見守りをしてきている。

また、保護者や地域の方たちと協力して通学路の定期的な安全点検を行ったり、駐在所の警察官を招いて不審者への対応を含む安全学習を行ったりもしている。

(3) 学習環境整備への支援

PTAが中心となって、校舎内や校庭の定期的な清掃活動、樹木の剪定や花壇の除草等を行っている。

右写真は、PTA主催による環境整備作業の様子である。運動会で使用する万国旗をロープにつける作業や刈り払い機による草刈りも同時並行で行った。家庭数は20家庭ではあるが、地域の方や保護者の方の参加数は20名を上回る参加となっている。



〔ホタル観賞会におけるゲストティーチャーからの説明〕



〔駐在所の警察官をゲストティーチャーとした安全学習〕



〔PTAと一緒に環境整備作業〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・多様な知識や経験を持つ保護者や地域の人々の協力・支援により、学校における学習活動や環境整備の充実を図ることができた。特に、児童が意欲をもって課題解決に取り組み、学習を深めることにつながっている。
- ・学校応援団活動を通じ、保護者や地域の人々に学校の教育活動を理解してもらうことにより、家庭や地域との連携が深まり、教育活動への一層の協力・支援をお願いすることができた。

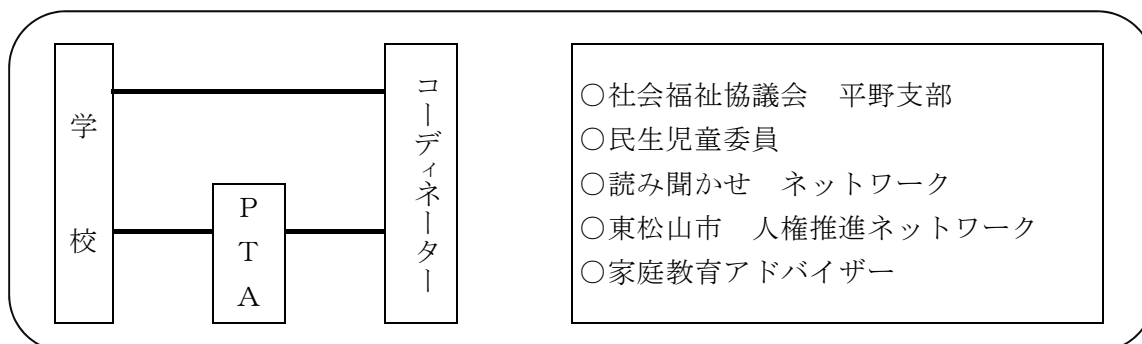
(2) コーディネーター、ボランティアさんの声（感想）

- ・「子ども達のふれ合いが楽しみ。」
- ・「児童の元気な姿や元気な挨拶がとてうれしい。」

東松山市立北中学校の実践

1 生徒数・学級数 420名・16学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	主任児童委員・家庭教育アドバイザー〔元PTA会長〕(1)
行っている業務	○学校(担当者)との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○行政及び地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

- (1) 学校応援団コーディネーターの地域力と支援体制を見直し、特色ある教育活動を再編成した。また、学校だよりやホームページに活動の様子を発信している。
- (2) 生徒が地域の体験活動・ボランティア活動に参加しやすいよう、学校応援団の方との交流会を計画的に実施した。

5 特徴的な活動内容

- (1) 居場所づくり(夏休みの宿題、夕食づくり)

夏休み中の夕食づくりと宿題を行うための居場所を確保している。地域の婦人会と本校の中学生ボランティアが夕食(カレー)をつくり、地域の幼児や小学生、中学生が集まり、交流を深めている。



〔婦人会とカレーづくり〕



〔食事会〕



〔勉強会〕

(2) 子育てサロン（赤ちゃんや小さな子供たちとの触れ合い活動）

社会福祉協議会の協力のもとに、乳児や幼児と触れ合いを通して、地域貢献すると共に、命の大切さを知る活動を目指し、実施している。



〔プール遊び1〕



〔プール遊び2〕



〔赤ちゃんとの触れ合い〕

(3) 夕涼み会（お化け屋敷づくりとお化けに変装）

お化け屋敷を通して、幼児や小学生との触れ合い活動をしている。前日にお化け屋敷の会場を設営し、当日は、生徒自らがお化けとなって、夏の一時を過ごす、触れ合い活動である。



〔墓石とお化け屋敷〕



〔お化けに変装1〕



〔お化けに変装2〕

(4) 赤ちゃん抱っこ体験（赤ちゃんとの触れ合い活動）

3年生を対象に、主任児童委員のウェルカムベビー訪問の際に、埼玉県家庭教育アドバイザーの協力のもとに実施している。今年で4年目となった。40組の赤ちゃんとお母さんの協力をいただき、実施した。



〔抱っこ〕



〔班ごとに触れ合い活動〕



〔お母さんから生徒に〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・いろいろな体験活動を経験することにより、やり遂げた達成感や人から感謝されることの喜びを通して、自分に自信がわき、社会性と自己肯定感が育まれるようになった。
- ・地域に根ざした交流・体験活動を柱に実践したことにより、地域社会の一員としての自覚と奉仕の心が養われ、自主的・主体的に活動する生徒が増えた。

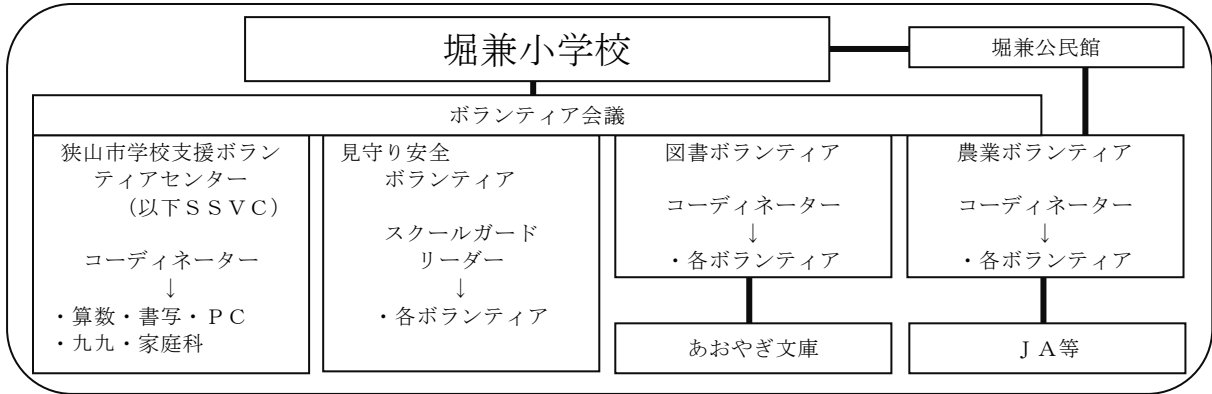
(3) コーディネーター・ボランティアの方の声（感想）

- ・学校の協力体制が整備されており、事前打ち合わせや準備、当日の運営がスムーズに行えた。
- ・事前説明会や準備、当日の生徒の動きや態度がとても良く、やりやすかった。
- ・中学生とボランティア活動を共にすることで、やりがいを感じた。

狭山市立堀兼小学校の実践

1 児童数・学級数 275名・12学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	現PTA関係者(2)、地域の有志(2)
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校(担当者)との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集活動



〔ボランティア紹介朝会〕

4 実施に当たっての工夫

(1) 多様な活動、継続的な活動にしていく上での工夫

各コーディネーターと相談し年度当初に年間活動計画を作成することで、各ボランティアに1年間の見通しをもって日程調整をしてもらえるようにしている。その上で月ごと、学期ごとの細かい活動内容を調整している。例えばSSVCでは、算数支援を月・火・木・金の週4日、書写支援を火・木の週2日、PC支援を木曜日に行うことを基本の活動として通年行っている。家庭科(被服・調理)・九九支援については活動予定月のみを知らせ、授業の進度に合わせて改めて活動依頼を行っている。

(2) 他の組織・団体等との連携

ア 図書ボランティアは、普段は保護者ボランティアを中心に活動しているが、各学期に1度、地域の紙芝居作家が代表を務める「あおやぎ文庫」を招いて読み聞かせを行っている。尚、「あおやぎ文庫」との連絡・調整などはすべてコーディネーターが行っている。

イ 農業ボランティアでは、地域の特産物「里芋」を教材に地域と連携した教育を進めている。農業ボランティアを中心に公民館・JA・地域の農家・地域の料理店と連携し、11月の収穫に合わせて「全校芋煮会」を行っている。全校芋煮会には学校応援団も招き、全校児童と共に美味しい芋煮を味わっていただいている。



〔全校芋煮会〕

5 特徴的な活動内容

(1) 学校支援

- ア 登下校時の立哨指導。全校児童275名に対して、50名を超えるボランティアが活動する。
- イ 毎週月曜日の読み聞かせ。月に一度の図書室整備。



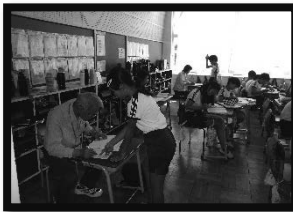
〔整備された図書室〕

(2) 学習支援

- ア 算数支援：毎週月・火・木・金曜日、年間210時間程度
- 書写支援：毎週火・木曜日、年間120時間程度
- 家庭科支援：適宜、年間40時間程度
- 九九支援：2学期末、20時間程度
- パソコン支援：木曜日クラブ活動、年間20時間程度
- イ サマースクール：夏季休業日4～5日間、40時間程度



〔読み聞かせ〕



〔算数支援〕



〔書写支援〕



〔PC支援〕



〔サマースクール〕

(3) 農業ボランティア

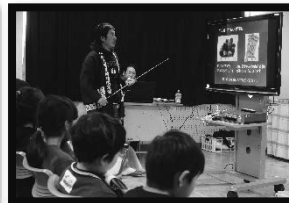
- ア 学校に隣接する農地の一部を学校農園として借り受け、農業ボランティア指導の下、全学年で農業体験学習を行う。狭山市学童農業体験事業3年連続優秀賞。
- イ 地域ぐるみの学習として、「全校芋煮会」を毎年11月に行う。公民館協力の下、学校農園で収穫した野菜と、地域の農家・JAから提供された野菜を食材に、地域の農作物を扱う料理店の料理長と一緒に調理し味わう。



〔学校農園 種まき〕



〔学校農園 収穫〕



〔ゲストティーチャー
による里芋のお話〕



〔料理店の方と
調理実習〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・登下校における児童の安全確保、よりきめ細やかな学習指導の実現、読み聞かせによる情操教育、地域理解を深め郷土を愛する心を育む農業体験など、学校と家庭が繋がり、地域社会や社会教育を巻き込んだ地域ぐるみの教育の実践が進んでいる。

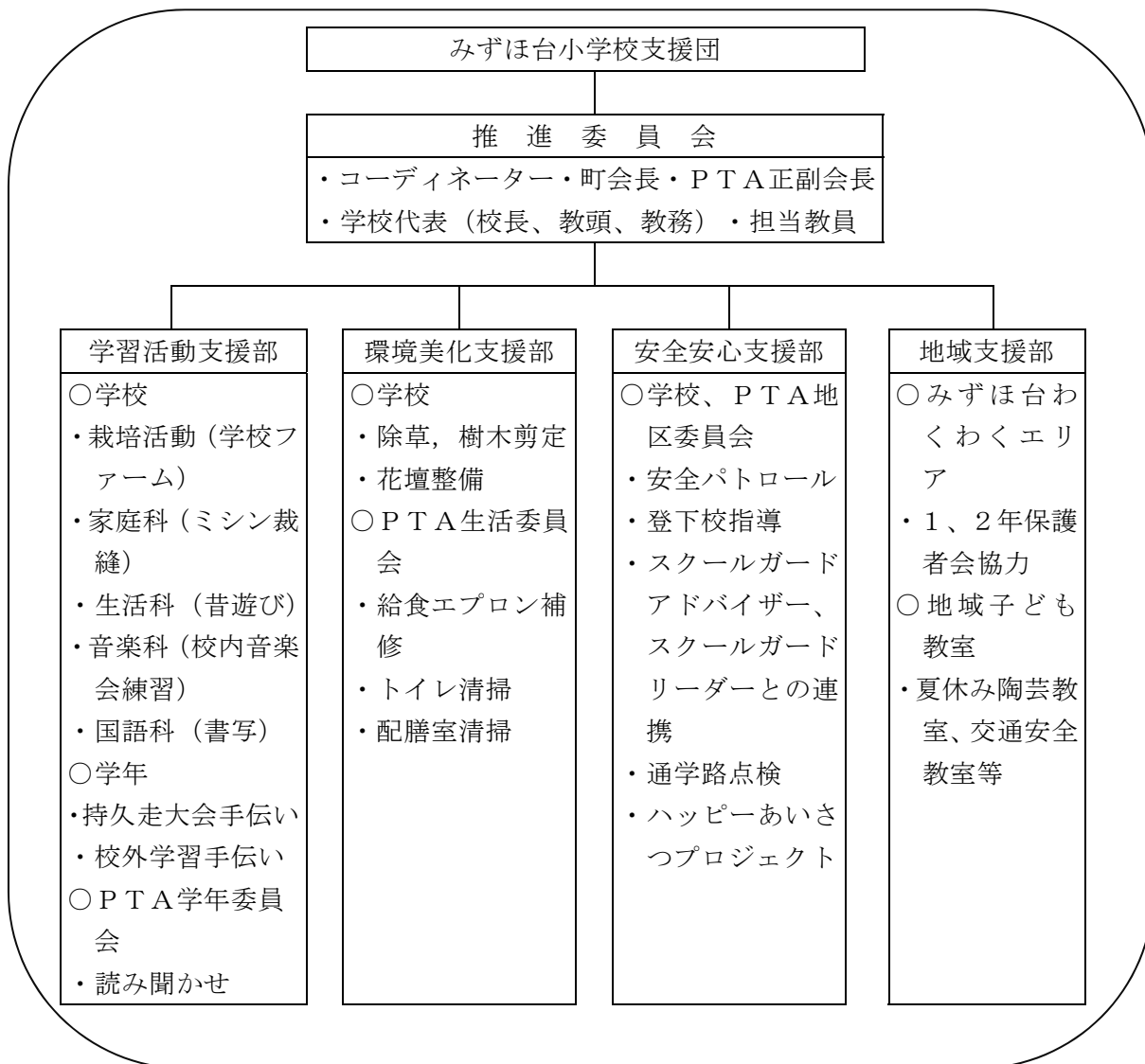
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・完全無償ボランティアとして「子供達の役に立つ喜び」が支援者の第一のモチベーションです。今後とも、我々のできる範囲で学校・先生方のお手伝いを続けたい。
- ・子供達との距離が縮まり、学校の様子がよくわかるようになりました。先生方との関わりを増やし相互に理解を深めることで、より活動内容を充実させていきたい。
- ・地域の特産物を扱った「全校芋煮会」は今後も続けてほしい。子供達の喜ぶ顔を直接見る機会が他にないのでやりがいを感じています。

富士見市立みずほ台小学校の実践

1 児童数・学級数 492名・19学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	現PTA役員（1）
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整

4 実施に当たっての工夫

- （1） 年度当初に学校支援ボランティア会議を開き、活動について共通理解を図るとともに留意事項について確認をした。
- （2） 毎回の活動について主幹教諭が案内を配布し、出欠の確認をとり、ボランティアの方

に無理なく参加いただけるようにした。

- (3) 活動の様子を写真等の記録に残し、写真は校内に掲示した。

5 特徴的な活動内容

(1) 学習活動支援部



〔ミシン裁縫〕

〔外国語活動〕

〔読み聞かせ〕

〔補習教室〕

○ 授業における学習支援

書写の授業では書初め大会に向けた練習等において、児童の横で筆遣いや、バランスのアドバイスをしてくれている。家庭科の支援では、ミシン、裁縫、調理等、技能面での補助と共に、安全面に配慮しながら多くの目で見守ることができている。

○ 学校行事に係る学習支援

持久走大会や校外学習など児童の安全見守りに参加していただいた。

○ P T A 学年委員会による学習支援

水曜日に各クラスで読み聞かせを実施している。

○ 地域の方による学習支援

夏季休業中における補習教室を開催し、学力の定着を図った。

(2) 安全安心支援部

○ 「ハッピーあいさつプロジェクト」

毎月第一金曜日を「ハッピーあいさつプロジェクト」とし、学校・家庭・地域・中学校とが一体となってあいさつ運動を実施している。



〔ハッピーあいさつプロジェクト〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

学校応援団の方々のきめ細かな支援や専門的な知識・技能に触れることで、子ども達の学習への取組や意欲が向上した。

ハッピーあいさつ運動の取組を実施したことで明るく元気なあいさつが学校だけでなく地域にも少しずつ響き渡るようになった。

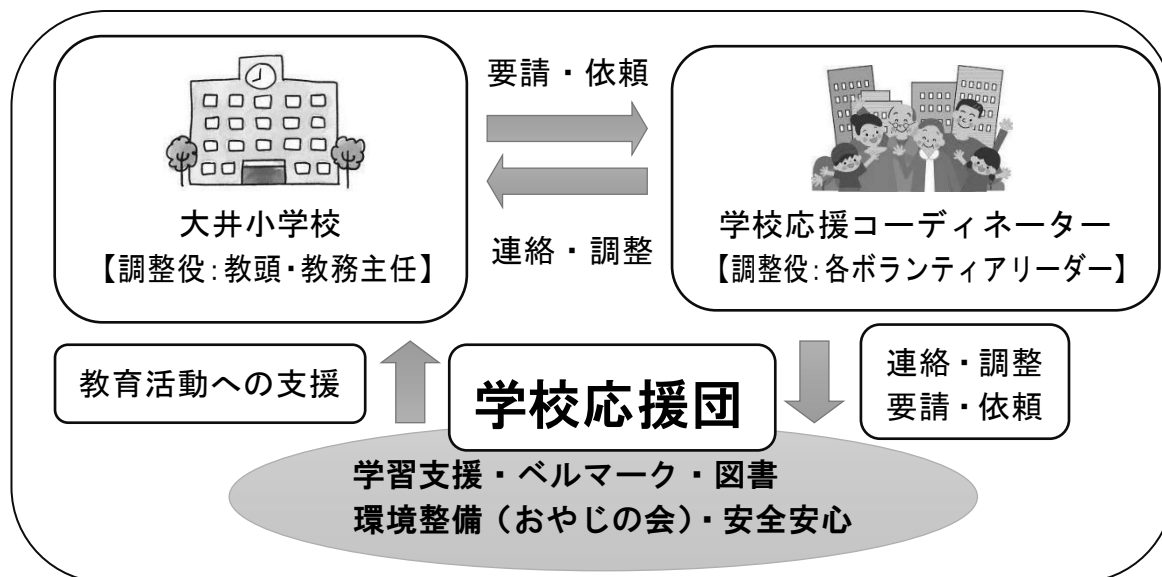
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

子供たちと顔見知りになるだけでなく、できるようになったときの嬉しそうな顔が見られるので楽しい。

ふじみ野市立大井小学校の実践

1 児童数・学級数 442名・15学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	保護者(3)、元保護者(1)
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校(教務主任)との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○新規活動の立案 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

(1) 連絡体制の確立

学校応援コーディネーターと学校の担当者(教務主任)が連絡調整を図り、学校応援コーディネーターが活動内容を確認して担当する応援団に連絡を取っていた。

(2) ボランティアの新規募集

音楽会の練習や、書き初め学習などの補助を学習支援ボランティアが行う際、該当学年の保護者にも声をかけることで、ボランティアに未登録の保護者も一緒に活動し、その後に登録してもらう良いきっかけとなった。

(3) 「学校応援団便り」の発行

学期毎に学校応援コーディネーターが中心となり、活動内容や今後の活動予定などを載せた「学校応援団便り」を配布し、学校応援団の認知度が高まり、新たなボランティア募集に繋がった。また地域にも回覧することで活動についての理解が深まった。

5 特徴的な活動内容

(1) 学習支援



〔音楽会に向けて楽器演奏練習の補助〕



〔書き初め学習の補助〕



〔街探検の引率補助〕

(2) ベルマーク

ベルマークの仕分け作業やベルマーク財団への発送作業の他に、学校の「ベルマーク委員会」と連携した活動を行った。応援団から児童に、集まったベルマークの仕分け方や発送の仕方が教えられた。また、児童にベルマークの点数から何を購入したいかを話し合わせ、ドッジボールとラグビーボールの購入を決めた。



〔ベルマーク委員会の児童と一緒に〕

(3) 図書

毎月の読み聞かせと図書整理活動として本の補修を行った。活動日には学校図書館支援員から補修方法についての詳しい説明があり、初めて参加する方も安心して活動ができた。また10月の活動では、ハロウィンに関する本を集めたハロウィンコーナーを設置し、図書室がより一層明るい雰囲気になり、たくさんの児童が喜んで図書室を訪れていた。



〔ハロウィンコーナー〕

(4) おやじの会

運動会終了後にテントの片付けや、運動場の整備を行い、安全できれいな環境の中で学習活動を行うことができた。またPTA主催のお祭りでは、焼きそばの模擬店を出店し、子どもたちに大人気だった。



〔大人気の焼きそば〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・学習支援活動により児童の教育活動が充実し、学習を深めることができた。
- ・環境整備や登下校の見守りにより、安心・安全な教育活動につなげることができた。
- ・学校応援団の活動を通して学校・家庭・地域との連携を深めることができた。

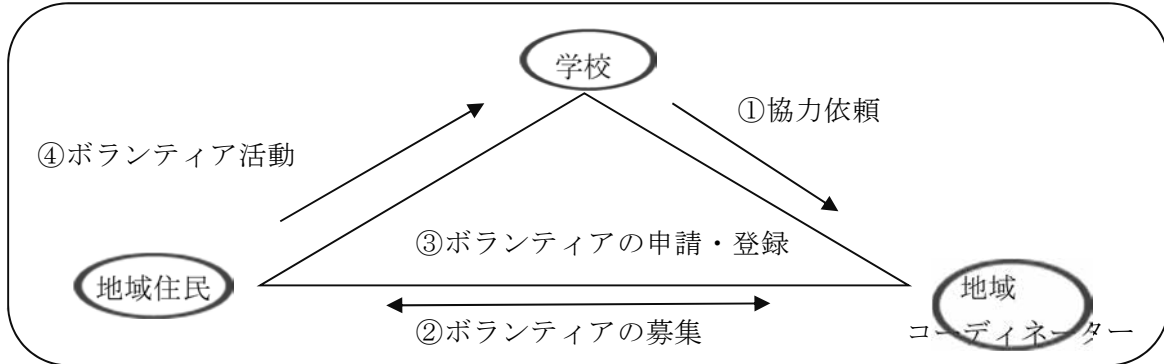
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声

- ・我が子の学年ではありませんでしたが、子どもたちが気さくに声をかけてくれたりして楽しかったし、ミシンに悪戦苦闘している姿がほほえましかったです。
- ・音楽補助に入りましたが、一生懸命練習した子どもたちがどんどん上手になっていく姿を見ることができて、大変嬉しかったです。

坂戸市立桜小学校の実践

1 児童数・学級数 399名・15学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元PTA本部役員（1）
行っている業務	○学校とボランティアさんとの連絡調整

4 実施に当たっての工夫

(1) 気軽に参加していただくために

見守り応援団として、無理な拘束はしないよう、以下のことに配慮した。①できる時間帯での活動 ②できる曜日での活動 ③1年ごとの任期（都合を最優先する）④自宅に近い任意の場所での活動 ⑤あいさつ、見守り活動が中心（交通指導はしない）

学習支援・環境美化・読み聞かせ・ランチルーム応援団として、学校側に各担当者を設け連絡を取りやすくしている。また、PTAからは、活動に必要な材料等の費用として補助金が配布されている。

(2) 全児童から感謝を伝えるために

11月には「ありがとう集会」を行い、普段からお世話になっている応援団の方々に児童から、感謝の手紙とプレゼント（歌・手作り葉）を届けた。地域における世代を超えた交流の機会を設けることができている。

5 特徴的な活動内容

(1) 安全安心見守り応援団

毎年、区長・自治会長の協力の下、「児童の登下校時の安全を図る・児童と地域の方々との交流を深める」ことを目的に見守り応援団を募集している。スクールガードリーダーを中心に、今年度は50名の方が参加してくださった。メンバーは年々増加している。応援団員と学校が一方通行にならないように、年1回の会議や登下校時間に



〔安全マップ作り〕

校長・教員が地域を回り、お礼のあいさつや情報収集をして、地域社会との連携及び協働を深めている。今年度は児童と一緒に地域を回り、安全マップ作りにも協力していただいた。

(2) 学習支援・環境美化応援団

内容は、①学習支援（学習補助・ゲストティーチャー・校外活動補助等）②環境美化（花壇整備・落ち葉清掃等）③図書・読み聞かせ（図書整理・読み聞かせ等）④ランチルーム（ランチルームの整理・掲示物作製等）とし、保護者を中心に任期は1年、毎年新規募集・更新をしている。また、時期的に必要なものは、随時活動いただいている。

(3) 関係機関との連携

ア 坂戸市スチューデント・インターンシップ

坂戸市では、女子栄養大学、城西大学と提携し、大学生のスチューデント・インターンシップ事業を行い通常1年間学生が配置される。その他、女子栄養大学の長期学校体験実習生として約1ヶ月間学生が配置されている。各学生は、学年（学級）に配置し児童とのコミュニケーションを深めると共に、学習支援や生徒指導面での補助を行っている。

イ 市立環境学館「いずみ」との連携

学区内に、環境教育を推進する坂戸市環境学館「いずみ」がある。小中学校向けの環境プログラムが用意されており、本校は積極的に活用している。

- 活用事例：1年「生き物自然観察」（生活科）
2年「生き物自然観察」（生活科）
3年「生き物自然観察」（理科）



〔環境学館「いずみ」〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

見守り応援団により、児童が安心して登下校することができている。保護者にとっても安心の材料となっている。応援団員が、児童と顔なじみになり、声をかけてくださる結果、教育活動の協力を結びつき、学校も地域との連携を深めることができるようになってきている。また、学習支援・環境美化などの応援団により、児童が学びやすい環境を整えたり専門的な体験学習を援助したりして、地域との信頼を基盤とした関係づくりを構築している。以上のような活動から、応援団員のコミュニケーションも深まり、活動の輪も広がり、児童が通いたい学校、家庭・地域が通わせたい学校づくりにつながっている。

坂戸市スチューデント・インターンシップ事業は学校、学生双方にとって大変有効な事業である。地域の大学の若い力を活用し、児童へのきめ細やかな指導に対する教員の補助を行うことは、児童の発達を支える指導の充実に成果を出している。また、異校種との連携では、中学生と一緒に活動することで活性化され児童にとって身近に感じることができている。環境学館「いずみ」との連携は、身近な教材を専門的に学ぶことができている。

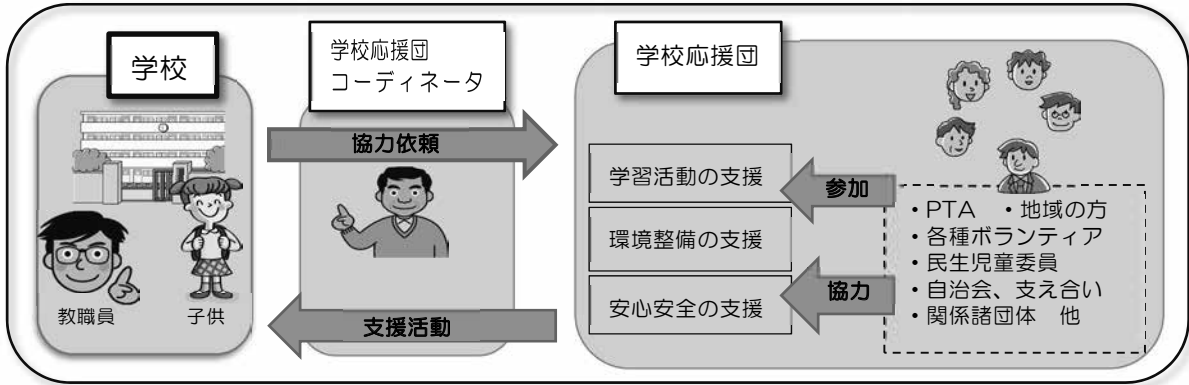
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・挨拶ができていなかった児童でも、次第に慣れてきて挨拶ができるようになって嬉しい。
- ・児童や地域のため、学校のためになっていることが何よりも嬉しい。

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校の実践

1 児童数・学級数 455名・16学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元PTA関係者
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○ボランティア、地域団体等との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施にあたっての工夫

(1) 学校応援団コーディネーターの活動の工夫

学校応援団コーディネーターには、学校協議会委員も兼ねていただき、年間3回の授業参観・協議会にも参加していただいている。そのことを踏まえて学校運営に関するご意見をいただいたり、その後の学校応援団の活動に生かしていただいたりしている。

(2) 目標の共有について

学校・家庭・地域社会が互いに協力して、子どもたちの健やかな育成を図り、生き生きとした活動を通して、潤いのある開かれた学校づくりを目指すことを目的とし、保護者や地域の人材を導入し活動している。

5 特徴的な活動内容

(1) 読み聞かせボランティア「ピーターパン」の活動

毎週水曜日の朝、読書タイムの15分間、絵本や紙芝居などの「読み聞かせ」を行っている。学期ごとに、読み聞かせをする学級、日程を計画して実施している。

また、大型絵本を用いての読み聞かせやブックトークなどを秋の読書月間に合わせて数回行っている。



〔「ピーターパン」の方による読み聞かせ〕

(2) 安心・安全な登下校への支援

スクールガードの方には、毎日、登校時だけでなく、下校時にも複数箇所で見守りをいただいている。

P T A役員全員に緑色の腕章を配付し、登下校時や地域での安全確保のための活動、及び通学路の安全点検を行っている。また、役員会が開催される日は、腕章を付けて、通学路を確認し、安全を確保しながら学校まで来るようお願いしている。



【スクールガードの活動】

(3) 高齢者サロンと児童との交流活動

市高齢者福祉課の取組である高齢者サロン「大げやきの会」が、毎月第3水曜日に校内のふれあい教室にて活動している。

そのメンバーの方に手ほどきを受け、3年生が体験学習として水引やしめ縄づくりを行っている。

また、3年生が社会科の学習として取り組む市文化財整理室での「昔のくらし体験」にもボランティアとして活動の支援をいただいている。



【しめ縄づくりの体験】

(4) 1年生 生活科での「昔遊び体験」の支援

学区市民センターで活動している高齢者の「さわやか学級」の方に支援していただいて1年生の生活科で「昔遊び」を教えていただいている。児童には、コマ回し、あやとり、ビー玉、けん玉、羽根つき等を体験する貴重な機会となっている。



【あやとりを教わる子供たち】

6 成果と課題、地域の方の声

(1) 成果と課題

- ・学校応援団の方々の活動により、児童が充実した学校生活を送ることができ、そのことが開かれた学校・信頼される学校の実現に繋がっている。特に読み聞かせの時間は、児童にとって楽しく本に親しむことができる貴重な時間となっている。
- ・本校は学区が広く、児童が広範囲から通学している。場所によっては、登下校の安全をさらに確かなものにしていきたい所もある。今後もスクールガードにご協力いただける方を増やすことができるように引き続きPR活動を続けていく必要がある。

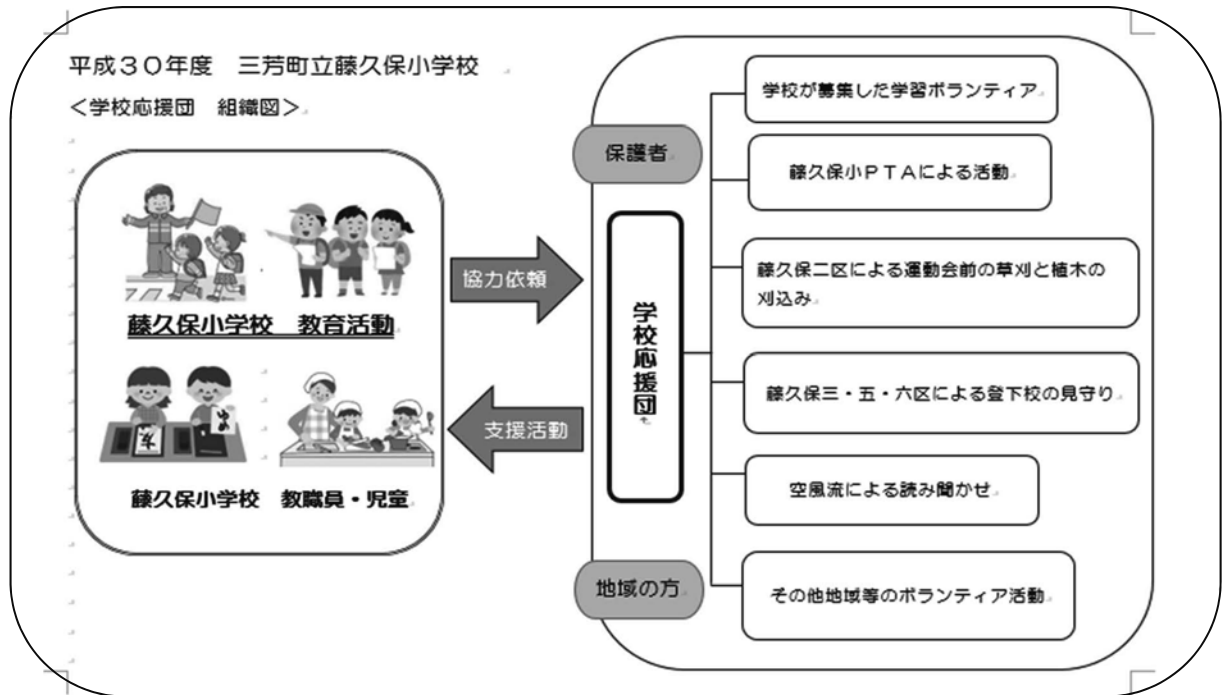
(2) 地域の方の声

- ・子供たちの元気なあいさつが増えてくると嬉しく思う。そのような子がさらに増えるよう声をかけて励ましていきたい。
- ・子供たちと共に活動する機会をもつことはとても楽しみであるので、今後も続けてほしい。

三芳町立藤久保小学校の実践

1 児童数・学級数 613名・22学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	教頭（学年主任）、PTA会長、区長、ボランティア団体の代表
行っている業務	学校との連絡調整

4 実施に当たっての工夫

- 具体的な教育活動を挙げ、ボランティアの参加を募った。どんなお手伝いをするのかを事前に明らかにすることで、参加しやすくした。
- 各学年の行事に合わせてボランティアを募り参加してもらうことによって、地域や保護者の方々の学校の教育活動に対する関心や理解を深める機会の一つとなるようにした。

5 特徴的な活動内容

- 「空風流」による読み聞かせ
 - 毎週金曜日の読書タイムに、月1回程度読み聞かせを行っている。
 - 3年生と、特別支援学級に対して、年1回ずつ様々な読み聞かせをしてくださる「お楽しみ会」を行っている。



〔お楽しみ会〕

(2) 校庭の草刈り

運動会前に、児童が分担をして草取りを行っているが、その後、地域の老人会が、草刈り機を使って、子どもの手ではできないところの草刈りをやっていた。

(3) 学校行事に合わせた指導の補助

朝顔のつるを使ったリース作り（1年）、商店街巡り（2年）、スーパーマーケット見学（3年）、自転車運転免許講習（4年）、家庭科でのミシンや手縫いの学習（5, 6年）、書き初め指導（3～6年）等の指導補助をお願いしている。

(4) 近隣の大学との連携

- ・教職課程を学んでいる学生が、一週間に1日程度、授業や日常生活において、教員の補助を行っている。
- ・学習ボランティアとして、夏季休業中の補習教室（3・4年）、算数の授業補助（4年）、放課後の算数の補充学習の指導補助（3年）を行っている。

(5) 児童の下校時の見守り

児童の下校時刻に合わせて、それぞれの地域で児童の安全の見守りを行っている。



〔自転車運転免許講習〕



〔書き初め指導補助〕



〔夏季休業中補習教室〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・学校行事だけでなく普段の教育活動において、保護者や地域の方々に指導補助をお願いすることによって、様々な教育活動の目的、教員の授業や活動に対する姿勢や子どもたちの様子などを直接見ていただくことができる。そうすることにより、学校の教育活動に対する理解度や信頼性が高まり、協力的な保護者や地域の方々が増えた。
- ・保護者や地域の方々、学生など、様々な年齢の方々との関わりを通して、思いやり、尊敬、感謝などの大切な学びを、授業の中だけでなく日々の生活の中で学ぶことができている。
- ・下校の見守りを通して、地域の高齢者の方々は、近所にはどんな小学生がいるのかを知ることができ、日常の中でも関わりを持つことができ、地域で子どもを育てることができている。

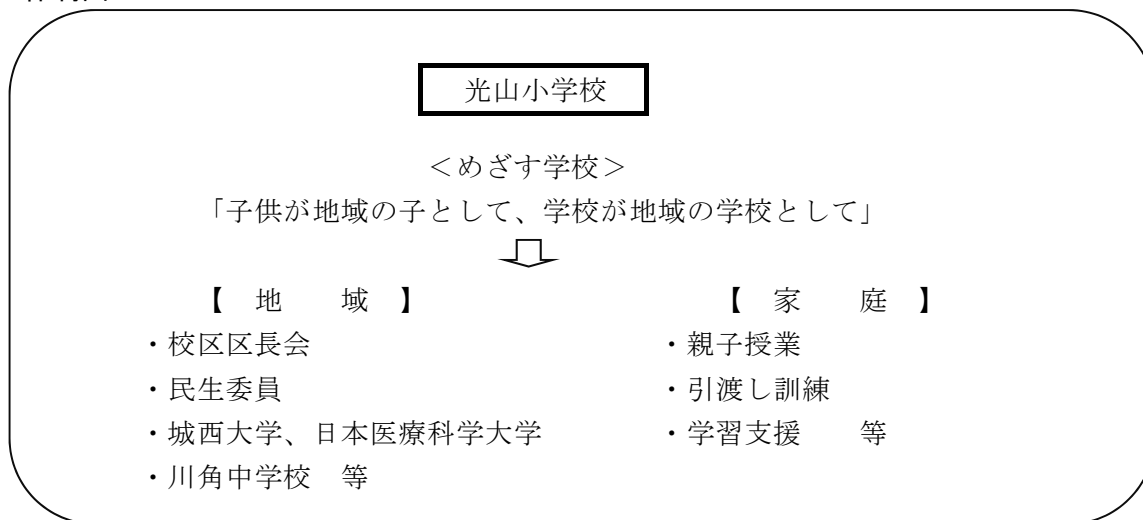
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・学校の行事のお手伝いをする中で、自分の子どもがこれから体験することがよくわかるので、とても助かる。
- ・先生方が、一生懸命に準備したり指導してくれたりしていることがとてもよくわかった。
- ・小学生の子どもたちと接することで、元気がもらえる。

毛呂山町立光山小学校の実践

1 児童数・学級数 240名・12学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	現PTA会長（1）
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整

4 実施に当たっての工夫

(1) 目標の共有について

学校応援団と学校との共有の目標として、「子供たちが地域の子どもとして、学校が地域の学校として」をたて、子供たちが将来地域の中で活躍できる下地づくりを行っている。

(2) 学校教育活動の情報提供について

日々の授業の中で、学校応援団の協力が必要なときに、すぐ依頼ができるよう、日頃から各学年の授業についての情報を学年だより等を利用して保護者に周知（ミシン指導、かけ算九九等）し、多くの保護者が参加できるよう工夫している。

(3) 事前の打合せの充実について

年間の行事計画、授業計画をコーディネーターに伝え、どのような場面でどのくらいの人数がボランティアとして必要なのか、授業の支援者としてどのような適任者がいるか等の情報交換を学校担当者と打ち合わせを行った。学校側からだけでなく、地域からの視点も取り入れることができ、活動の幅を広げることができた。

5 特徴的な活動内容

(1) 田植え・稲刈り体験

5年生児童が、6月5日（火）に田植え体験、9月28日（金）に稲刈り体験を学校応援

団のメンバーでもある地域の農家の方の指導のもと実施した。事前に学校応援団に登録した保護者、5年生保護者にも事前に呼びかけ、当日は20数名のサポートを得ることができた。応援団の協力のもと、田植えと稲刈りの体験等を安全に進めることができた。

また、指導者の助言のもと、苗の成長を日々見守れるよう、学校にも苗を植えたバケツを用意し、児童が水やり等を行った。これら一連の経験をとおして、子供たちはお米を作ることの大変さと、作ってくださる方への感謝の気持ちを学ぶことができた。

さらに、農業体験は将来の進路選択の一助となるとともに、食育の観点からも有意義な体験となった。

(2) 学校・家庭・地域と共に行う防災訓練

6月28日(木)に、全校児童が地域と共に実施する防災訓練を行った。主な内容は、消防署の協力による起震車・消火器体験、消防車見学、本校の学区の区長を招いての避難所開設訓練(非常時の役場担当者の紹介、体育館・防災備蓄庫の見学・説明、アルファ米等の試食等)等であった。さらに、各学級においては、自然災害のビデオを視聴し、防災に関する心構え等についても学んだ。最後は、避難訓練と引き渡し訓練を行い、保護者との連携も深められた。

今後も、「自分の命は自分で守る」ことを念頭に、災害時における行動の仕方について継続的に学習していく。



<稲刈り体験>



<防災訓練での水消火器体験>

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・地域の人材を学校の教育活動に積極的に取り入れることにより、専門の方から子供たちは学ぶことができた。
- ・学校内に留まらず、地域に出て活動することで、自分達が暮らす町の特徴を実体験として知ることができた。
- ・学校、家庭、地域、学校応援団、さらに消防署といった関係団体と共同で防災について考える良い機会となった。
- ・避難場所である学校で、災害時を想定した体験活動ができたことは、地域との一体感を高める上でも有意義であった。

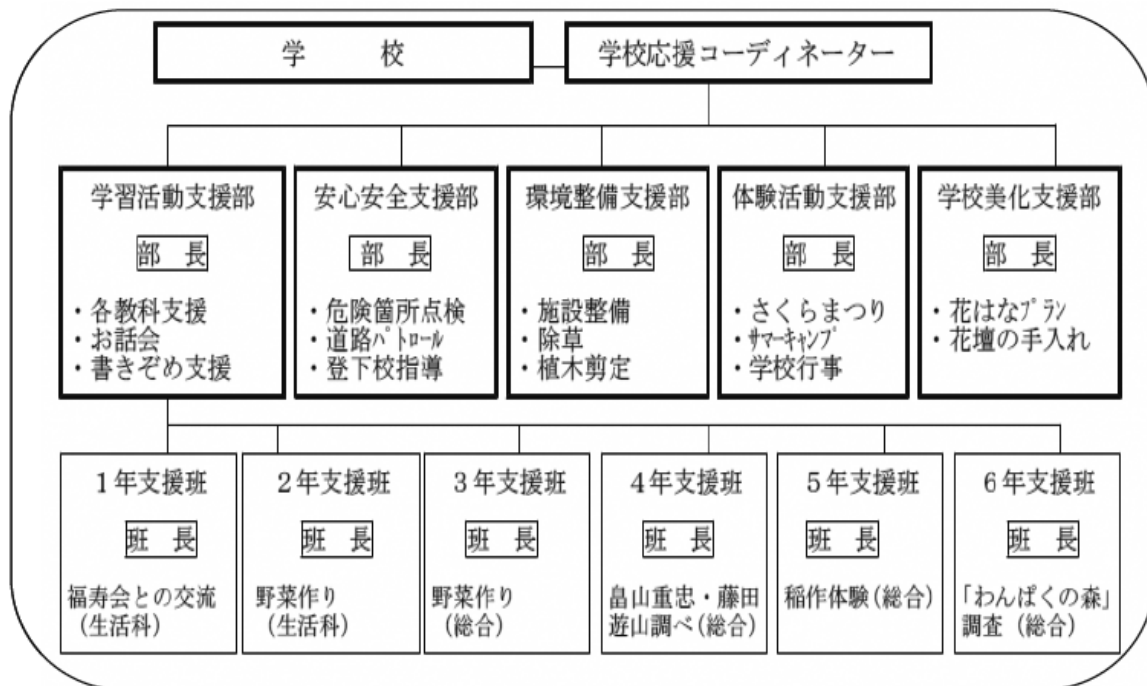
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

- ・学校応援団や保護者、地域の方達と学校とを結ぶのは、簡単なことではないが、一体となって活動することにやりがいを感じている。
- ・子供たちと一緒に活動することで、子供たちの日頃の様子や学校の様子を知る良い機会となり、学校がより身近なものとなった。
- ・学校の備蓄の様子や避難した際のルールを知ることができ、有意義な体験となった。

深谷市立川本南小学校の実践

1 児童数・学級数 183名・9学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	地域の有識者〔前自治会長〕(2)
行っている業務	○学校(担当者)との連絡・調整 ○必要に応じて個々のボランティアとの連絡・調整

4 実施に当たっての工夫

- (1) 次年度の活動が4月から円滑に進められるように、学校応援団の総会を毎年3月に実施している。
ここでは、事業報告、次年度の組織、事業計画が主な協議題となる。
- (2) 行事や教科等、目的に応じて対応できるように、部長や班長など、各担当を決めている。
(例、2年生生活科の野菜植えは〇〇さん担当、3年生の野菜植えは△△さん担当。5年田植えは××さんをお願いするとメンバーに周知して協力していただける。等)



〔サマーキャンプ〕



〔花壇の手入れ〕

5 特徴的な活動内容

(1) 米作りと田んぼアート

5年生は、稲作体験の中で、田んぼアートに挑戦している。10年目となる今年度も、4種類のもち米を組み合わせ、写真のようなアートを完成させた。籾ふりから田植え、稲刈りまで行う。もち米は、収穫祭で餅をつき、全校児童にふるまわれた。また、お世話になった方々に届けたほか、東日本大震災で被災地となった岩手県田野畑村の小学校へも贈り、児童同士の絆を深めた。もち米の運搬にも学校応援団の協力をいただいた。



〔平成30年度田んぼアート〕

(2) さくらまつりとサマーキャンプ

ともにPTA行事の一つであるが、体験活動支援部の協力を得て実施している。さくらまつりは、新入学児童及び転入職員の歓迎会を兼ねて、4月の第1土曜日に全校児童を対象に実施している。高学年が班長となり、焼きそばやとん汁などを食べたりレクを行ったり、交流を図っている。

サマーキャンプは、夏季休業中、3年生以上の児童が、縦割り班を組織し、学校内で1泊2日の共同生活を送るものである。どちらも、8割以上の児童が参加している。



〔さくらまつり〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

コーディネーター及び各支援部長や学年支援の班長の連携が図られている。応援団員それぞれの専門性が生かされ、学習活動の質が高まってきた。

花壇の整備、除草、樹木の伐採など、学校・保護者・地域が協力して教育環境を整え、きれいな学校づくりを推進できた。

応援団の方との交流をとおして、児童は保護者・地域の方に支えられているという意識が高まり感謝の心を育むことができた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

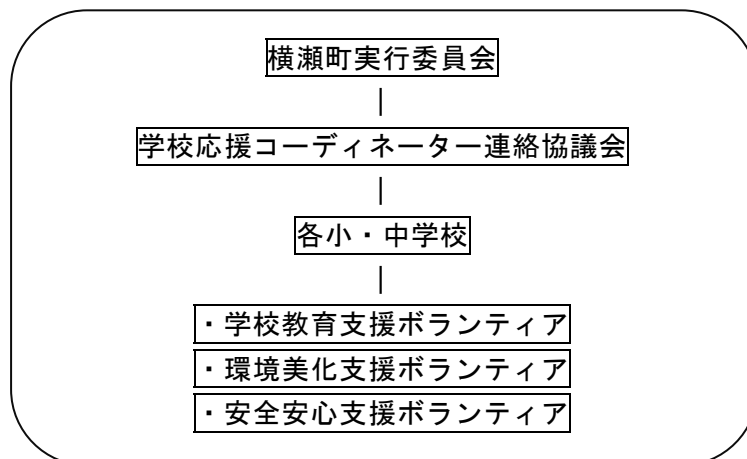
川本南小学校の子どもたちとふれあったり、協力したりして関わりたいと思っている人は多いが、自分からなかなか声を上げて応援することが難しい。みんな、自分の地域の良さを継承したい、学校に貢献したいと考えている。核家族化などが進む今日、地域で子どもたちを育み、日本一の学校をめざすことで、明るい地域づくりや、伝統を守ることにつながりたい。そのために、学校・保護者・地域を繋ぐ仕組みとして学校応援団を活性化していくことが重要であると思うし、そう努めていきたい。

横瀬町立小・中学校の実践

1 児童数・生徒数・学級数

横瀬小学校 393名・15学級 横瀬中学校 227名・9学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	7名
担い手	公民館職員（1）、主任児童委員（2）、社会福祉協議会（1）、教育委員会職員（2）、元PTA役員（1）
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校及び担当者との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○研修会等の企画・運営 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

- (1) 小・中学校の各支援ボランティア名簿の管理、実行委員会や学校応援コーディネーター連絡協議会の運営等を町（教育委員会）と各学校とで有機的な連携をとり、効率的に学校応援団事業が進んでいる。
- (2) 学校公開日に合わせて、学校応援団の支援ボランティアの方との教育活動を計画し、保護者や地域の方に広く周知するように工夫している。
- (3) 子供たちと支援ボランティアの方と一緒に給食を食べる機会を多く設定し、より地域の支援ボランティアの方と親しみ、身近な存在となるよう工夫している。

5 特徴的な活動内容

(1) 学校教育支援の取組

ア 小・中学校における教科等での教育支援

菊づくり、しいたけ栽培、読み聞かせ、クラブ活動、昔遊び、農業体験、福祉体験、休業中の自主学習補助などの学習への支援を行っている。

イ 中学校における部活動への指導

柔道部、剣道部、ソフトテニス部、卓球部、バレーボール部、バスケットボール部、美術部で支援している。



〔部活動指導の支援〕

(2) 環境美化支援の取組

小・中学校において、校庭の除草作業、花の苗植え、図書
の整理等を行っている。

(3) 安全安心支援の取組

小・中学校における登下校の見守り、防犯看板の整備など



〔登下校の安全支援〕

(4) 学校応援団ボランティア研修会

(子供の成長を支える講演会) の開催

日時 平成30年8月23日(木)

会場 横瀬町民会館

対象 支援ボランティア、小・中学校PTA、教職員及び地域住民

講師 元熊谷特別支援学校長 黒須 文夫 様

「発達障害への理解と障害のある人の人権」という演題で、講師の先生の教員時代の体験や各小・中学校へ訪問等での経験をもとに、特別支援教育の重要性と進めていく上での課題、障害のある子供たちが目を輝かせ、すくすくと成長させることの大切さについてお話しいただいた。身近な地域にある学校での現状や実態を知るとともに、障害のある人の人権について参加者一人一人が人権尊重の視点で学ぶことができた。



〔講演会の様子〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・年度ごとに各支援ボランティアを募り、地域住民への周知・協力を図りながら活動内容を充実させることができた。
- ・学校公開日等に支援ボランティアを活用した教育活動を実施することで、地域と一体となった教育活動を地域住民や保護者に広く知らせることができた。
- ・支援ボランティアを主な対象とした研修会に、教職員やPTA、民生委員・児童委員など地域の方など約90名の参加があり、「地域の子供を地域で育てる」ための啓発を図ることができた。

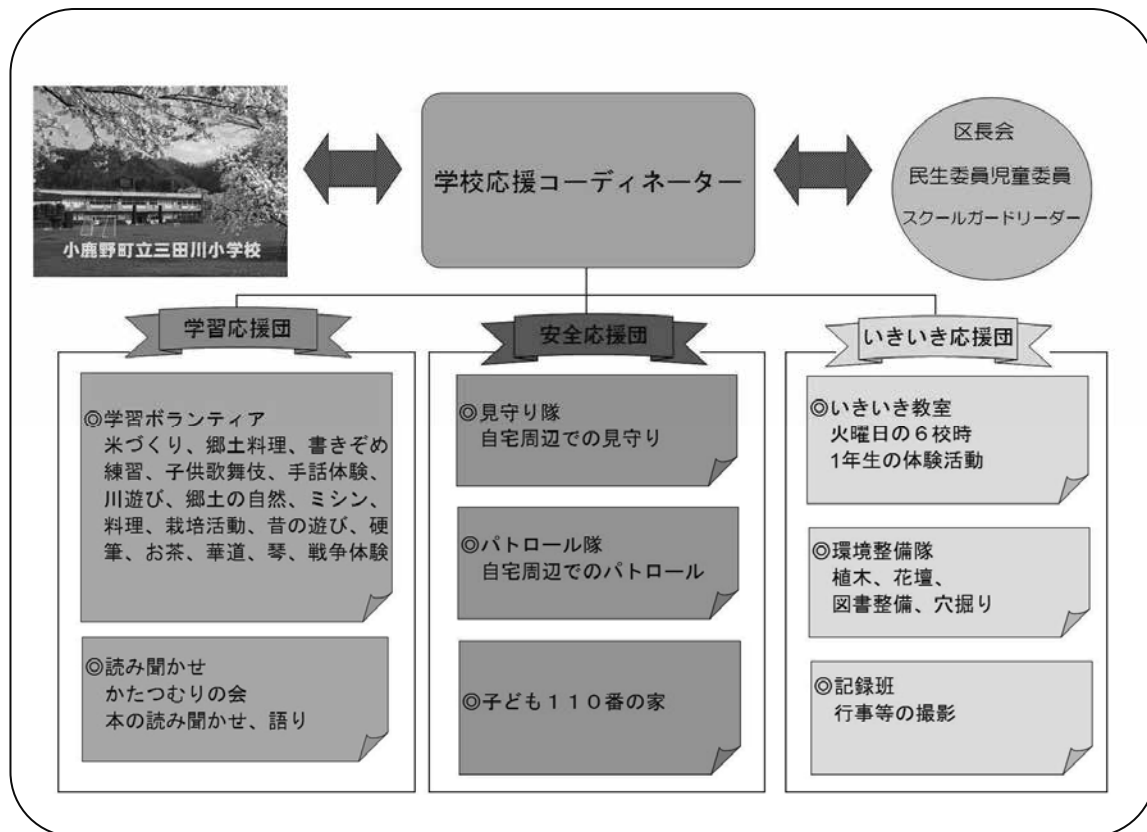
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

- ・「夕方、家の近くを歩いていると、横中の生徒が学校帰り、疲れていると思いますが『こんにちは!』と挨拶してくれます。朝も登校していく生徒が『おはようございます!』と明るいあいさつをしてくれます。とてもさわやかです。」
- ・「横瀬町は温かい。本日の講演会の参加者をみてもいろいろな立場の方がいろいろな思いをもって参加されていたように感じる。これからも学校・家庭・地域が一体となって子供たちを見守っていければと思う。」
- ・「児童生徒さんからお礼の手紙をいただくと、本当に嬉しくなります。今後も、できる限りのお手伝いをさせていただきたいと思っています。」

小鹿野町立三田川小学校の実践

1 児童数・学級数 59名・6学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	元教員（3）、元保護者（1）
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

(1) コーディネート上の工夫

毎月1回校長室において、学校応援コーディネーター会議を開催し、定期的に学校と応援団の方々との打合せ及び連絡・日程調整の場としている。

(2) 目標の共有について

共有している目標「子供がいきいきと活動し、地域とともにある学校」を目指し、小規模校の良さを生かして児童一人一人を十分に理解し、児童の健やかな成長を育むとともに、地域の特色を生かした教育課程を実施し、家庭や地域から信頼される学校の実現を図って

いる。そのため学校応援団をはじめ、家庭や地域の皆様の支援や協力をいただき、地域の教育力を生かして学校と家庭・地域が一体となった教育活動を実践している。



〔米作り体験(田植え)〕

5 特徴的な活動内容

(1) 学習応援団による授業支援

総合的な学習における米作り体験や郷土料理作りをはじめ、子供歌舞伎体験など地域の伝統文化の継承につながる学習活動において、地域の専門家の方々から継続的に直接ご指導をいただいている。また、書きぞめの指導補助や生活科の川遊びでの指導補助など、地域の方々の得意分野を生かした内容で、児童の個別対応に当たっていただいている。



〔子供歌舞伎体験〕

(2) 安全応援団による毎日の見守り活動

児童が朝、通学班で登校時に毎日家の近くで見守り活動をして、あいさつの声をかけていただいたり、パトロール隊として登下校時に児童と一緒に通学路を歩いていただいたりしている地域の方々が大勢いるため、朝から児童の元気な挨拶の音が地域に響いている。



〔登校時のパトロール〕

(3) いきいき応援団による放課後子供教室の指導

主任児童委員や民生委員・児童委員を中心に多くの地域の方々に、毎週火曜日の第6校時に1年生を対象とした「放課後子供教室」の指導者になっていただき、年間を通して様々な体験活動を実施していただいている。特に「わりばし鉄砲」「クリスマスツリー」などのものづくりや「スイカ割り」「手品教室」など1年生でも楽しめる内容を工夫していただいている。制作した作品はその都度、児童が大切に家に持ち帰って遊んでいる。また、運動会前には踊りの愛好会の方々から秩父音頭を2年生と一緒に習って、運動会当日には地域の方々と一緒に踊りの輪を作り、秩父音頭の練習の成果を保護者に披露している。



〔わりばし鉄砲づくり〕



〔秩父音頭の指導〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

様々な学習場面や登下校の見守り等、地域の方と交流を持つことで、児童は自分たちが地域と深く関わっていることを実感し、たくさんの支援を受けていることに感謝の気持ちを覚えている。また、教師の力だけでは実現できない貴重な体験を児童にさせることができ、学習効果の向上にもつながっている。何よりも、学校と家庭・地域との連携が深まり、地域の皆様の支援のもと、地域に根ざした教育活動が展開できている。



〔民生委員あいさつ運動〕

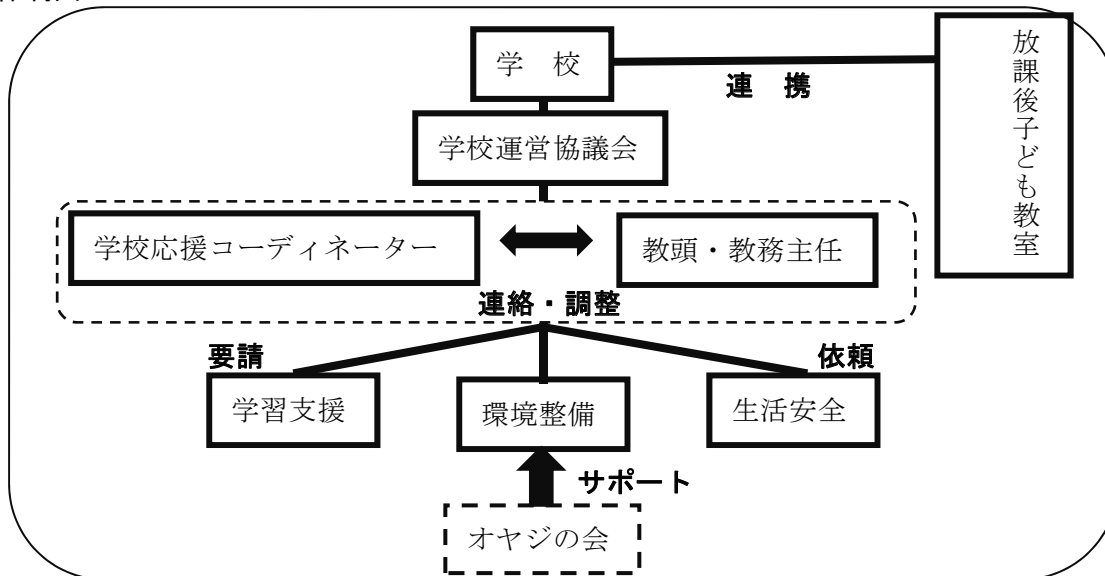
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

学校応援団としての活動にやりがいを感じることができた。また、学校を知る良い機会にもなった。子供たちが元気にいきいきと活動する姿がボランティアの励みになっている。

行田市立北小学校の実践

1 児童数・学級数 372名・15学級

2 体制図



3 学校応援団コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元PTA会長〔オヤジの会会長〕(1)
行っている業務	○学校(担当者等)との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

(1) 他の組織・団体等との連携

同じ学区の中学生や公民館の茶道クラブの方々、放課後子ども教室の方々など地域団体と連携し、学習支援や体験活動をさせてもらっている。地域の様々な力をお借りして、専門的な知識であったり、学校生活だけではできない数多くの経験ができたことなど、子ども達に深い学びを味わわせることができている。



〔茶の湯体験〕

(2) 多様な活動、継続的な活動にしていく上での工夫

学校運営協議会で話し合われた内容や学校評価アンケートから学校への要望を精選し、そこから多様な教育活動を検討し、それを実践するための支援を学校応援団に協力要請している。さらに、活動後には御意見をいただいて振り返りを行い、そこからさらに次回よりよい活動が行えるようにしている。

(3) ボランティアの確保に関する工夫

学校だよりや学校専用メールなどで、随時ボランティアの募集活動を行い、参加を求め

ている。また、活動内容の紹介についてもホームページ等で積極的に行っている。

5 特徴的な活動内容

(1) 学校支援活動

読み聞かせボランティア

月2回（木曜日）、各教室で読み聞かせを行っている。ボランティアの方々が時季や該当学年の発達段階に合わせて興味をもってくれそうな内容で話して下さるので、児童は意欲的に聞いている。また、図書室などでオススメの本なども紹介していただき、児童の読書への興味関心を引き出している。

グリーンボランティア

学校に多くの樹木があるので、剪定や伐採、ビオトープの環境整備も行っている。さらに、学校花壇の土作りから花植えまで進んで行っている。きれいな学校環境の中で児童を生活させることで、よりよい情操教育につながっている。



【グリーンボランティア】

見守りボランティア

地域の見守りボランティアの方々が毎日、登下校時刻に合わせて立哨指導を行い、防犯・交通事故防止に努めていただいている。児童とも積極的にコミュニケーションをとっていただき児童の様子を見て、気になる姿があればすぐに学校に連絡をくださるので、見守り活動のみならず児童の育成にも同様にご協力いただいている。

(2) 放課後子ども教室と連携した取組

火曜日の放課後に約1時間の講座で、運営スタッフやサポーターを中心とした放課後子ども教室が行われている。シャボン玉あそび、スポーツ吹き矢など昔遊びやものづくり、スポーツ、学習など多種多様な講座で児童も数多くの経験をさせてもらっている。学校、家庭、地域が連携しながら地域総ぐるみで子供を育てる活動を行えるようにしている。



【放課後子ども教室】

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・お茶の体験や環境学習など学校の中だけでは経験することができないことが、地域の人材を活用することでできるようになっている。
- ・活動をしていく中で、応援団の方から「次はこのようなことをしてみてもいい？」など新しい活動提案をして下さるので、学校のよりよい教育活動の充実につながっている。

【児童より】

- ・見守り隊の方がいつも見守ってくださっているので、安心して学校に行けます。そして、会うと笑顔であいさつしてくさるので、元気になる。

【職員より】

- ・担任だけでは準備が難しく、活動の幅を狭めざるを得ないものでも応援団の方々のおかげで計画通りにやりたい教育活動をしっかりと進めることができる。

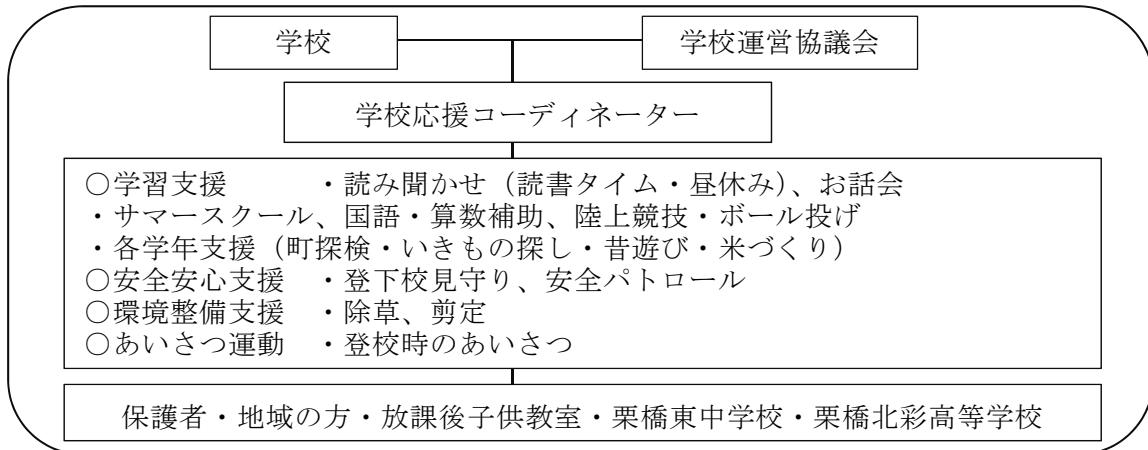
(2) 学校支援ボランティア・学校応援コーディネーターの感想

- ・学校だより等だけでは、生の学校の様子が見られないのでこういう活動を通して、子供たちの姿を見られて嬉しい。
- ・実際の学校の様子を見て、さらに協力していきたいと思った。

久喜市立栗橋小学校の実践

1 児童数・学級数 609名・20学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	現PTA会長（1）、スクールガードリーダー（1）
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集

4 実施に当たっての工夫

(1) コーディネート上の工夫

年3回「めくりん会議」として学校応援団代表者・地域の代表者（区長・民生委員等）・現PTA本部役員・学校運営協議会委員等が参加し、学校支援について協議し、共通理解している。また、学校応援コーディネーターと学校の担当者（教頭等）が連絡調整を図り、学校応援団の加入状況や活動内容を確認して、必要な措置を講じるようにしている。

(2) 目標の共有について

栗橋地区小中学校5校が「志はぐくむ栗橋学園」として小中一貫教育を推進している。学校を応援する活動として「できる時に、できることを、みんなで楽しく」を合い言葉に子どもたちと地域の方々、自分自身が元気になる学校づくり・地域づくりを目指している。

5 特徴的な活動内容

(1) 小・中・高と連携した取組

ア あいさつ運動（愛さつ運動）※小・中連携

毎月初めの3日間、栗橋東中学校生徒・保護者・地域の方と一緒にあいさつ運動を実施している。

イ 吹奏楽部の演奏会 ※小・中連携



【横断幕を掲げてあいさつ運動】

音楽鑑賞会として、マーチングでは全国レベルの栗橋東中学校の吹奏楽部による演奏会を実施している。

ウ サマースクール ※小・中、小・高連携

夏休みのサマースクールでは、栗橋東中学校・栗橋北彩高等学校の生徒に学習ボランティアとして協力をいただいている。

エ 陸上競技・ボール投げ指導 ※小・高連携

栗橋北彩高等学校の陸上部の皆さんに6年生を対象に小学校陸上大会に向けて、また、野球部の皆さんに5年生を対象にボール投げの指導をしていただいている。



〔吹奏楽部の演奏会〕



〔サマースクールでの支援〕



〔陸上のバトンパスの指導〕



〔ボール投げ指導〕

(2) 地域と連携した取組

ア 放課後子供教室（栗くりゆうゆうプラザ）

月曜日の放課後や土曜日を活用して、地域の方が実施委員・指導者・サポーターとなり放課後子供教室が行われている。保護者にも講座及び下校サポーターの協力をいただいている。また、講座の栗橋音頭は、地域の夏祭りや栗橋文化祭に参加している。講座のフラダンスは、夏休みに介護施設を訪問している。

イ 農業体験としての米作り

学校ファームとして農地を提供してもらい、5年生を対象に田植え・稲刈り体験を実施している。そして、収穫祭としてのもちつき体験も実施している。この取組は、地域の方・保護者・農協関係者の協力をいただいております、今年で30年目を迎えたことから、久喜市教育委員会より感謝状を贈呈した。



〔栗橋文化祭での栗橋音頭の発表〕



〔介護施設でのフラダンスの発表〕



〔教育委員会から感謝状の贈呈〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・コミュニティ・スクール2年目となり、学校と家庭・地域との連携が深まり、地域の皆様の支援のもと、地域に根ざした教育活動が展開されている。
- ・教員にとっても地域の人財（教育力）を活用することで学ぶことも多く、自己教育力の向上に大きく役立っている。

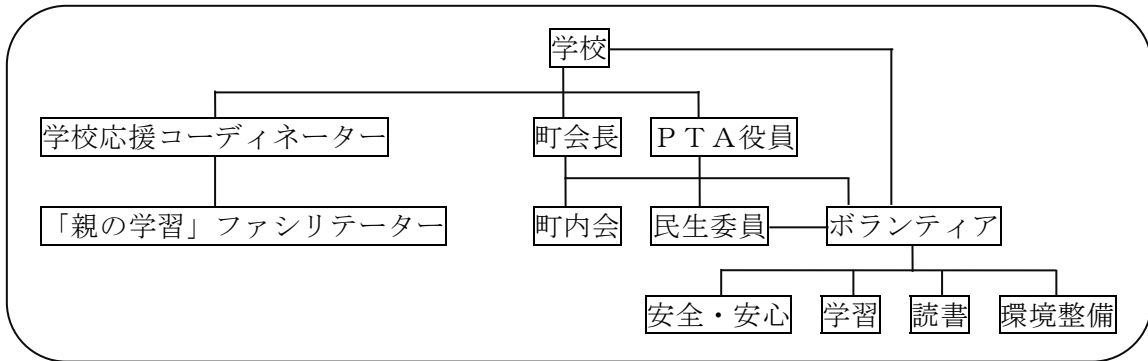
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・学校応援団の参加者は、学校を応援することにやりがいと生きがいを感じている。
- ・子どもたちと一緒に活動したりあいさつされたりすると、たくさんの元気をもらうことができる。今後も無理のない範囲で協力していきたい。

三郷市立戸ヶ崎小学校の実践

1 児童数・学級数 427名・15学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元PTA会長（1）
行っている業務	○学校との連絡・調整 ○「親の学習」推進 ○新たなボランティアの募集活動

4 実施に当たっての工夫

(1) 他の組織・団体等の連携「親の学習」

親の学習ファシリテーターと連携し、学年の発達段階に合わせた内容を、児童と保護者が一緒に学んでいる。実施にあたっては、事前にファシリテーターと学年担任が協議し、内容の選定とともに当日の具体的な運営について打ち合わせを行う。さらに、学校公開日など、保護者が来校する日に合わせて「親の学習」を実施することで、多くの保護者の参加につなげている。



〔親の学習・「こんな時どうする?」〕

(2) ボランティアの確保に関する工夫

年度当初、全児童の保護者及び地域に「学校応援団」募集のお知らせを配布し、希望される方を応援団として登録している。募集の際、活動内容として、「安全・安心」「学習」「読書」「環境整備」の4つを挙げ、実際の活動について具体的に紹介するとともに、協力いただける時間も確認するようにしている。

応援団として登録いただいた方には、毎月「学校だより」をお届けし、学校の様子が伝わるように配慮している。また、近くに住んでいる児童に学校だよりを届けさせることで、応援団の方との交流を図っている。

5 特徴的な活動内容

(1) 安心・安全確保への支援

交通量の多い交差点や、見通しの悪い交差点などに、安心・安全ボランティア（見守り隊）の方々が、毎日登下校時に立ち、横断歩道を渡る児童のために右折車を制したり、一列に並んで歩道を歩くように声かけをしたりしている。片側2車線の幹線道路を横断して登校する児童も多いが、見守り隊のおかげで、安全が確保されている。保護者も輪番で毎朝交差点に立ち、見守り隊と一緒に児童の安全を見守っている。



【見守り隊・登校時の安全確保】

また、毎日夕方、地区役員の保護者が中心となり、学区内の見回りをしている。学校での「夕焼けチャイムまでに帰宅する指導」と連携した見回り活動の成果として、子供だけで遅くまで遊ぶ姿はほとんど見られない。

(2) 学習活動への支援

① ミシンボランティア

高学年の家庭科で、ミシンの学習を、学習ボランティアが支援している。各家庭でミシンを扱う機会は少なくなっているため、ボランティアによる支援の効果は大きい。



【田植え指導】

② 田植え・稲刈り

5年生の総合的な学習の時間に、地域の民生委員が来校し、田植え・稲刈りの指導を行っている。

③ 読み聞かせ

毎週月曜日の朝、読み聞かせボランティア（おはなし隊）が各学級で読み聞かせを行い、児童の本への興味・関心を高めている。



【おはなし隊・読み聞かせ】

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

見守り隊による登下校時の安全の確保と児童への声かけにより、交通ルールをしっかりと守ることができている。見守り隊のメンバーは地域の高齢者が多いが、児童が日常的にあいさつをしており、温かな交流が図られている。

学習活動への支援では、ボランティアが児童一人一人に寄り添い、きめ細かく支援してくださった。ミシンの学習では、縫い方を失敗した児童をフォローしていただき、全ての児童が作品を完成させた。稲刈りでは、鎌の使い方を児童にわかりやすく指導していただき、児童は効率的に鎌を使い、作業を終えた達成感を味わっていた。さらに、田んぼの大きさや刈り取った稲から収穫できる米の量を知り、食に関する興味・関心が高まった。

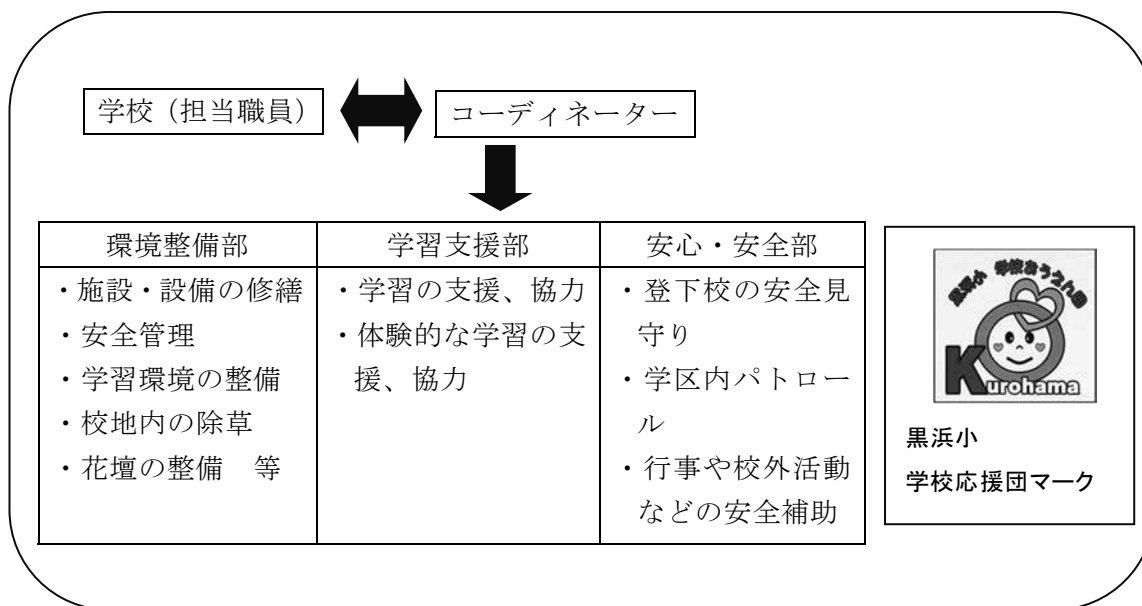
(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・読み聞かせでは、児童が表情豊かにお話をきいてくれるので、やりがいを感じる。次はどんなお話を読もうか考えるのも楽しい。
- ・学校を訪問して明るい挨拶に包まれる度、自分も元気に頑張ろうという気持ちになる。
- ・見守り隊として子供たちに関われることが嬉しい。なるべく長く続けていきたい。

蓮田市立黒浜小学校の実践

1 児童数・学級数 354名・13学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元自治会長（1）
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整

4 実施に当たっての工夫

定例化、定期化を図ることにより、計画的に活動をしている。環境整備部は、毎月第1土曜日を活動日として時季に合わせた活動をしている。また、学習支援部の活動については、年間指導計画の時期を固定化することにより、学校応援団員の方から声が上がリ、活動についての工夫が提案されるようになってきている。

参加しやすい雰囲気づくりも心がけている。無理のない範囲での協力を基本とし、学校応援団員の方々に負担にならない雰囲気を作っている。

また、児童が感謝を表す場を設けている。日頃のお礼をするために、感謝の会を開いたり、給食に招待したりしている。

5 特徴的な活動内容

(1) 環境整備部

ア 樹木の枝切りや除草作業等の校地内整備及び親子除草への協力

イ コンポスの作成

雨戸板を利用しコンポスを作成し、刈った草や落ち葉を集めて腐葉土づくりを行

っている。

ウ 植物園の造成

体育館脇に様々な植物の植栽を行い、将来児童が親しめる植物園にする構想で活動している。

エ 校庭の整備作業等

オ 児童用机の調整（年度初め）



〔校地内の樹木整備〕

〔植物園の造成〕

〔児童用机の調整〕

(2) 学習支援部

ア 授業における学習支援、ゲストティーチャー、アシスタントとしての活動

…生活科（昔遊び）、総合的な学習の時間（黒浜沼調査隊）

イ 体験活動の指導、協力…農業体験（米作り、サツマイモ栽培）

ウ サマースクールの補助

（夏季休業中3年生以上の児童が参加）

(3) 安心・安全部

ア 登下校の見守り

イ 安全パトロールの実施（放課後）

ウ 校外学習の引率



〔5年黒浜沼調査隊〕

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・環境整備部では、校地内の整備を実施し、低予算で学習環境を整えることができた。また、専門性を生かした独自の環境整備も進展している。
- ・授業及び体験的学習における学習支援では、日ごろ学校生活では体験できない活動を行うことができ、子供たちの興味や関心を高めることができた。また、専門的な支援により、理解が深まり、それをもとにした思考力も育ってきている。
- ・昔遊びでは、お年寄りの方との交流により人を思いやる心が育った。
- ・登下校の見守り、安全パトロールの実施により、児童が安全に生活できる環境が整っている。
- ・学校応援団員の来校により、「地域に開かれた学校」が推進できている。学校・家庭・地域の連携をより深めることができた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

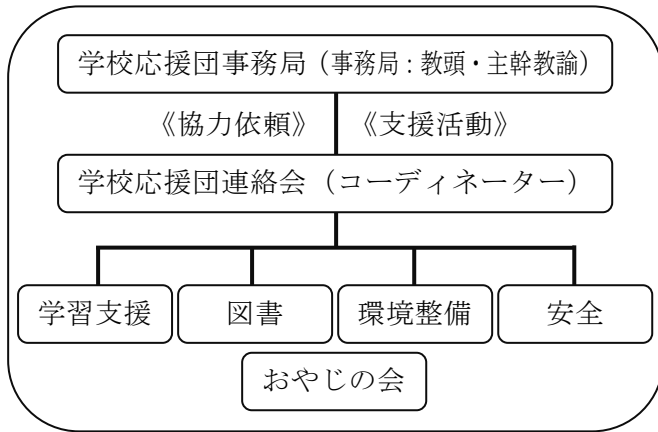
- ・子供たちから「ありがとう」と言われるととてもうれしいです。
- ・自分の行っていることが子供達のためになっていると感じるとやりがいがあります。
- ・よく感謝をされますが、むしろ私達の方が感謝しています。

宮代町立百間小学校の実践

1 児童数・学級数 387名・15学級



2 体制図



本校は、「進んで学ぶ子、やさしい子、たくましい子」を学校教育目標として掲げ、児童が物事に全力投球で取り組む学校、安心・安全で美しく整えられた学校、家庭や地域社会から信頼される学校の具現化に向け教育活動を進めている。現在、学校応援団の組織を中心として、家庭や地域の皆様の理解や協力をいただきながら、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を実践している。

3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	3名
担い手	P T A会長（1）、学校評議員（1）、スクールガード・リーダー（1）
行っている業務	○学校と学校応援団の連絡調整 ○地域情報の学校への提供 ○各取組の成果や課題等の報告

4 実施に当たっての工夫

- (1) 年度当初と年度末に学校応援団連絡会を開催し、年間活動計画の確認と成果や課題について整理し、今後の活動に生かすことができるようにしている。
- (2) 年間計画に応援団の活動を明記することにより、計画的に活動することができている。また、コーディネーターが、それぞれ各部門に所属し、学校応援団と共に活動するようにしている。
- (3) 2月に「感謝集会」を実施している。学校応援団をはじめとして、日頃お世話になっている交通指導員や地域の方等を学校に招待し、感謝の気持ちを伝える機会としている。



〔学校応援団連絡会〕



〔感謝集会〕

5 特徴的な活動内容

(1) 学習支援

・「生活科」

校外学習では、グループ活動に付き添っていただいているため、行動範囲が広がり、有意義な学習を進めることが



〔昔の遊び体験〕

できている。昔の遊び体験では、地域の方をゲストティーチャーとして招待し、日本の伝承遊びを教わっている。

・「家庭科」

ミシンを使用する学習には、学習支援登録者への依頼や必要に応じてボランティアを募集し、児童の傍らについてもらい学習を進めている。児童は、指導や援助を求められることができるため、安全を確保しながら円滑に学習を進めることができている。

(2) 図書ボランティア

読書活動推進のために、朝読書の時間に読み聞かせやブックトーク等を実施している。また、学校図書館司書や町立図書館司書と連携して、本の整理や補修を行っている。

(3) 環境整備ボランティア

施設設備、備品等の修繕として、校舎内の壁や扉、校庭遊具等の塗装、縄跳びジャンプ台や跳び箱の補修等を行っている。また、校舎内外を点検し、危険な箇所がないか確認するとともに、修繕が必要な場合にはすぐに対応している。

(4) 登下校安全見守りボランティア

スクールガードや地区防犯会、PTAが協力し、子供の登下校の見守りや通学路の安全点検を実施している。また、学校・家庭・地域が連携して、登校時の挨拶運動を実施している。



【ミシンを使った学習】



【ブックトーク】



【縄跳びジャンプ台】



【朝の挨拶運動】

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・学校応援団と連携することにより教育活動が充実し、児童の主体的な学びを推進することができた。
- ・地域の方の力で教員だけでは行き届かない環境整備や登下校の見守りを行うことで、児童の安全確保ができた。
- ・学校応援団の方々が児童たちと一緒に活動することで、学校での教育活動の理解を深めることに繋がった。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・多くの子供たちと関わる機会が増え、元気をもらうことができている。
- ・直接子供たちと触れ合う機会があり、とても楽しく楽しいひと時を過ごすことができている。子供たちのため、これからも学校に協力していきたい。
- ・地域で子供たちから挨拶されることが多くなり、子供たちと交流する機会が増えた。



【地域の方との交流】

学校地域WIN-WINプロジェクト

～県立学校の取組～

「地域学校協働活動」は、高等学校や特別支援学校でも取り組まれている活動です。本県では今年度から『学校地域WIN-WINプロジェクト』として、県立学校における、地域で学び、学んだ成果を地域で活かす教育活動をスタートさせています。

【目的】

- 子供たちがより良い社会と幸福な人生の作り手となる力を育むため、学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに学校の力を地域で生かす取組を推進する。
- 「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」、「総合的な探究の時間」など、新学習指導要領への対応に備える。

【取組1】 実践研究校5校を指定

- 学校・地域・県が連携しながら、学校・地域双方がWIN-WINとなるモデルを打ち出す。
- 地域の資源を活用した実社会からの学びを取り入れた教育活動（探究的学習）の実践研究

実践研究校	研究テーマ
小川高校	小川高校「ふるさと創生」プロジェクト
庄和高校	庄和の未来を共に創る「地域創生」物語
鳩山高校	ハトミライ☆プロジェクト
吉川美南高校	地域と吉川美南高校が奏でる芸術創造
越谷西特別支援学校	越谷西特支ICTでつなぐ地域きずなプロジェクト

【取組2】 学校と地域のマッチング等

- 県立学校と連携・協働を希望する企業・NPO・市町村等が教育プログラムを作成
- 学校が活用できる教育プログラムをホームページに掲載
- 教育局職員がコーディネーターとなり、学校と企業等をマッチング

【マッチング成立例】

- ・さいたま桜高等学園 × LAWSON
『もっちりとした さくらあんぱん』考案・発売



【取組3】 フォーラムの開催

- 実践研究校の取組・成果の普及を目的に、全員参加のグループセッション、パネルディスカッション、交流会を開催
- グループセッションでは、高校生と大人が同じグループとなり、高校生の地域での学びの成果をもとに、これからの学校づくり、地域づくりについての話し合いを行いました。

詳しくは…

学校地域WIN-WIN

検索